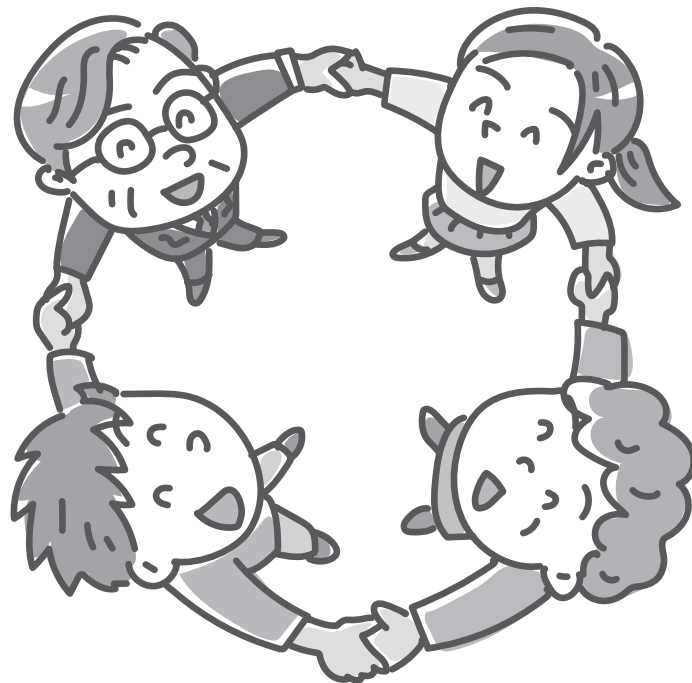


しじょうなわて し ち い き ふ く し かつ どう けい かく
四 條 畷 市 地 域 福 祉 活 動 計 画
だい き
(第 4 期)

れ い わ ね ん ど ね ん ど ね ん ど ね ん ど
令和2年度(2020年度)—令和5年度(2023年度)



れ い わ ね ん がつ
令和2年3月
ね ん がつ
(2020年3月)

しゃかいふくしほうじん しじょうなわてししゃかいふくしきょうぎかい
社会福祉法人 四 條 畷 市 社 会 福 祉 協 議 会

ごあいさつ



しじょうなわて し ちいき ふくしかつ どうけいかく さくてい いんかい
四條 畷市 地域福祉活動計画策定委員会

いいんちょう こてら てつや
委員長 小寺 鐵也

しじょうなわて し しゃかい ふくしきょうぎかい へいせい ねん がつ れいわ
四條 畷市 社会福祉協議会は、平成27（2015）年3月に令和2（2020）年3月末を終期とする「第3期四條 畷市 地域福祉活動計画」を策定し「みんなの力で地域からつくる 暖かみのあるまち」を基本理念に掲げ、多様化する福祉課題に対して地域や行政との連携のもと、様々な地域福祉事業を展開してまいりました。

この間、かん しょうし こうれいか いっそう しんこう かぞく けいたい へんか どう ちいき
コミュニティを取り巻く環境は大きく変化し、新たな福祉課題が顕在化してきています。

そして、さいがいたい さくきほんほう かいせい せいかつ こんきゅうしゃ じりつ しえんほう こ ひんこんたい さく
の推進に関する法律、成年後見制度の利用の促進に関する法律の施行、「地域
ほうかつ け あし す て む こうちく かいご ほけん せいど おおはば かいせい しょうがいしゃ
包括ケアシステム」を構築するための介護保険制度の大幅な改正、障害者の
にちじょう せいかつ およ しゃかい せいかつ そうごうてき しえん ほうりつ しょうがい りゆう
日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律、障害を理由とする

差別の解消の推進に関する法律の施行、子ども・子育て支援新制度の本格実施

等、福祉に関する法令や支援制度も大きく変化しつつあります。平成 28（2

016）年7月には厚生労働省に「我が事・丸ごと」地域共生社会実現本部」

が設置され、「地域共生社会」の実現が今後の福祉改革を貫く基本コンセプト

に位置づけられました。

そして、本計画は、行政計画である「第4期四條畷市地域福祉計画」と同一

の基本理念に基づき、公民が連携し、四條畷市域における地域の様々な福祉

課題を地域に暮らす市民自らが発掘し、住みよい福祉のまちづくりに取り組む

活動により地域福祉を推進していくという観点は国のめざす「地域共生社会」

そのものであります。

最後に、本計画の策定にあたりまして、熱心にご審議いただきました策定

委員会の皆様、アンケートにご協力を頂きました市民の皆様、関係機関の皆

様に厚くお礼を申し上げます。

令和2年3月

ごあいさつ



しじょうなわて し しゃかいふくしきょうぎかい
四條畷市社会福祉協議会

かい ちょう あさい しげる
会 長 浅井 茂

こんにち しょうしこうれいか ちいき かぞく きはくか すす きんねん たはつ
今日、少子高齢化や地域・家族のつながりの希薄化が進むとともに、近年多発
する災害への備えや社会的孤立、子どもの貧困が社会問題になる等、地域の福祉
かだい ふくぎつ けんざいか しんこく じょうきょう
課題は複雑かつ顕在化しており、より深刻な状況となっております。

げんざいくに ちいきじゅうみんひとり やくわり ささ あ
現在国におきましては、地域住民一人ひとりがあらゆる役割をもち、支え合
い・助け合いながら自分らしく活躍する「我が事・丸ごと」地域共生社会の実
げん めざ
現を目指しています。

しゃかいじょうきょう なか へいせい ねん がつ さくてい だい きしじょうなわて し ちいき
こういった社会状況の中、平成27年3月に策定した第3期四條畷市地域
ふくしかつどうけいかく せいか かだい けんしやう ちから ちいき あたた
福祉活動計画の成果や課題を検証し、「みんなの力で地域からつくる暖かみ
のあるまち」を基本理念とした第4期四條畷市地域福祉活動計画を策定いたし
ました。

こんご けいかくじつげん む しみん みなさま ちいきふくし かか だんたい れんけい
今後の計画実現に向け、市民の皆様と地域福祉に関わるあらゆる団体と連携
と すす かんが きょうりよく
を取りながら進めてまいりたいと考えておりますので、さらなるご協力とご
さんか ねが もう あ
参加をお願い申し上げます。

むす ほんけいかく さくてい きちよう いけん ただい きょうりよく たまわ
結びに、本計画の策定にあたり貴重なご意見と多大なご協力を賜りました

さくていいいん みなさま あんけーと わーくしょっぷ ぶとう きょうりよく
策定委員の皆様、アンケートやワークショップ等ご協力をいただきました

みなさま こころ かんしゃ れい もう あ
皆様に心より感謝とお礼を申し上げます。

れいわ ねん がつ
令和2年3月

もくじ 目次

だい しょう けいかくさくてい かんが かた 第1章 計画策定の考え方

- 1 けいかくさくてい はいけい しゅし 1
- 2 けいかく わくぐ 3

だい しょう けいかく きほんてき かんが かた 第2章 計画の基本的な考え方

- 1 きほんりねん きほんもくひょう 7
- 2 とりぐみ ほうこう 12

しりょうへん 資料編

- わーくしょっ ぶほうこく 21
ワークショップ報告
- あんけー と けっか ほうこくしよ 31
アンケート結果 報告書
- あんけー と ちようさひよう 79
アンケート調査票
- しじょうなわて し ちいきふくしかつどうけいかくさくていいんかい せいめいぼ 92
四條畷市地域福祉活動計画策定委員会委員名簿
- しじょうなわて し ちいきふくしかつどうけいかくさくていいんかい せつちようこう 93
四條畷市地域福祉活動計画策定委員会設置要綱
- けいかく さくていけいか 95
計画の策定経過

第1章

計画策定の考え方

1 計画策定の背景と趣旨

昨今、少子高齢化や核家族化の急速な進行、世帯構成員数の減少等により、住民のライフスタイルや価値観が多様化する中で、地域社会においても環境の変化を受け、地域のつながりや家族間のつながりが希薄化しており、地域住民どうしの支え合いだけでは解決しない問題が表面化しています。

また、高齢、障がい、ひとり親家庭等の福祉制度の支援を必要とする人々だけでなく、貧困や非正規雇用、自殺、家庭内暴力、虐待、ひきこもり等地域での課題は多岐に渡り、複雑化・多様化しています。

そして、災害時においても地域でのつながりが重要視され、平常時だけでなく、緊急時であっても、子どもから高齢者まであらゆる世代の人や障がいの有無、性別、国籍の違い等にかかわらず、だれもがとりこぼれることなく、住み慣れた地域で、その人らしい生活を送ることができる地域社会への取り組みが一層期待されています。

今後、地域が抱える生活課題の解決に向け、地域住民どうしの助け合いに加え、地区福祉委員、民生委員・児童委員、地域団体、社会福祉協議会及び行政などが相互に協働し、「自助」・「近助」・「共助」・「公助」を推進し、制度や「支

える側」「支えられる側」という関係性を超えて支え合う「地域共生社会」の実現
が必要です。

本計画は、これらの状況及び第3期四條畷市地域福祉活動計画から継続し
ている課題等を明確にし、「みんなの力で地域からつくる暖かみのあるまち」
の実現に向け、地域住民や地域団体、ボランティア等が活動するうえで、地域
福祉の推進のため、取り組むべき方向性を示すため策定しました。

2 計画の枠組み

【1】計画の性格

地域福祉活動計画は、住民等が主体となって策定する任意の計画です。この計画は、社会福祉法第107条第1項第3号「地域福祉に関する活動への住民の参加の促進に関する事項」を中心として、住民が計画主体となつて関係機関・団体、行政等との連携を図りつつ、地域住民の意見を基盤に策定するものです。

行政においては、平成16年3月に策定された第1期四條畷市地域福祉計画を基礎として、平成31年3月に第4期地域福祉計画「なわてみんなの福祉プラン」が策定されています。

本計画の策定・実施にあたっては、行政計画である「なわてみんなの福祉プラン」との整合性を図り、連携しながら進めていくものとします。

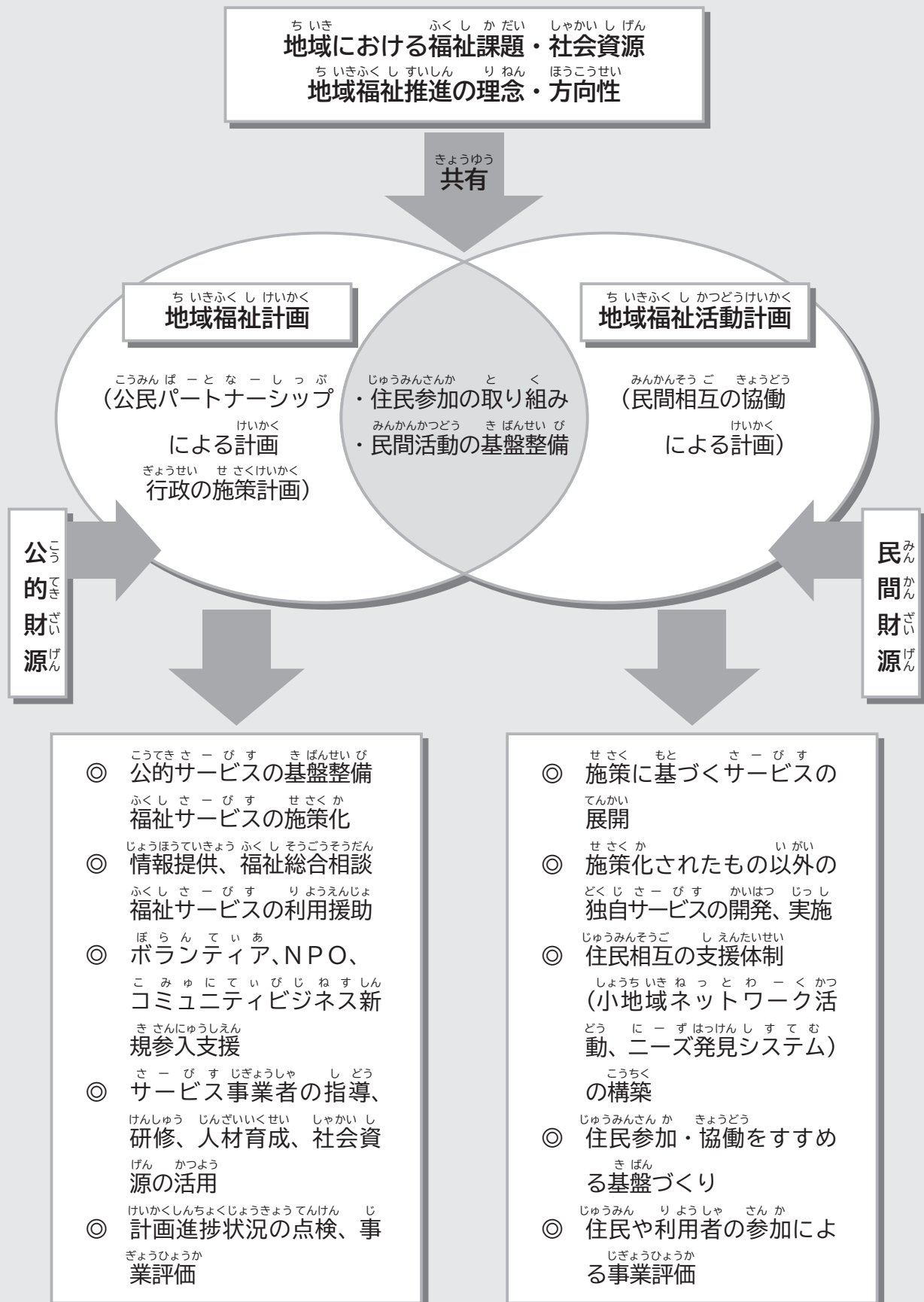
※ 社会福祉法第107条第1項第3号

(市町村地域福祉計画)

市町村は、地域福祉の推進に関する事項として次に掲げる事項を一体的に定める計画（以下「市町村地域福祉計画」という。）を策定し、又は変更しようとするときは、あらかじめ、住民や社会福祉を目的とする事業を経営する者、その他社会福祉に関する活動を行う者の意見を反映させるために必要な措置を講ずるよう努めるとともに、その内容を公表するよう努めるものとする。

1. 地域ちいきにおける福祉サービスふくしサービスの適切な利用てきせつりようの推進すいしんに関する事項かんじこう
2. 地域ちいきにおける社会福祉しゃかいふくしを目的とする事業もくてきの健全な発達じぎょうけんぜんはつたつに関する事項かんじこう
3. 地域福祉ちいきふくしに関する活動かんかつどうへの住民じゅうみんの参加さんかの促進そくしんに関する事項かんじこう

《 地域福祉計画と地域福祉活動計画の関係図 》

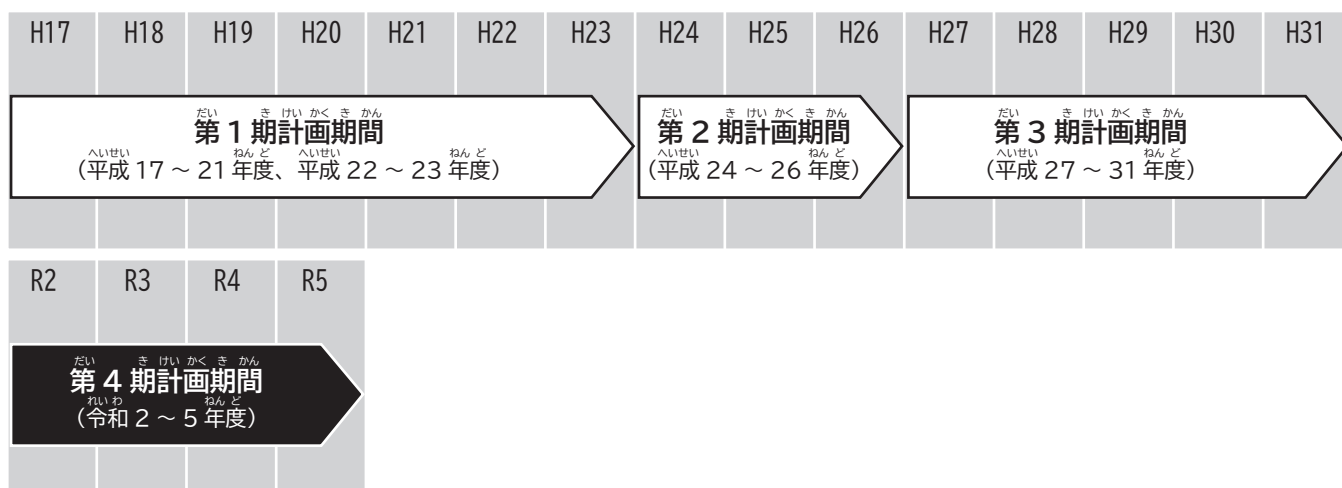


【2】計画の対象

本計画は、民間分野での福祉活動・事業を範囲としており、その対象としては子ども、障がい者、高齢者等の各福祉分野における福祉の当事者(利用者)及びその家族、地区福祉委員会、民生委員・児童委員、ボランティア、NPO、地域団体、社会福祉施設、社会福祉協議会等の福祉に係る様々な組織・団体、そして地域社会の構成員である住民全体を対象とします。

【3】計画の期間

本計画の期間は、令和2年度から令和5年度までの4カ年とします。



第2章

計画の基本的な考え方

1 基本理念と基本目標

(1) 基本理念

少子高齢化の進行、独り暮らし世帯の増加、近年の経済情勢や雇用の不安定化等の社会環境を背景に、地域の人間関係や家族関係が薄れ、さまざまな困難を複合的に抱える人々が増加しています。住み慣れた地域で安全に安心して元気に暮らし続けるために、行政が提供する公的なサービスのみでは、制度の狭間で支援が困難な場合や、自らSOSを発信することができず支援につながらない状況も生まれています。

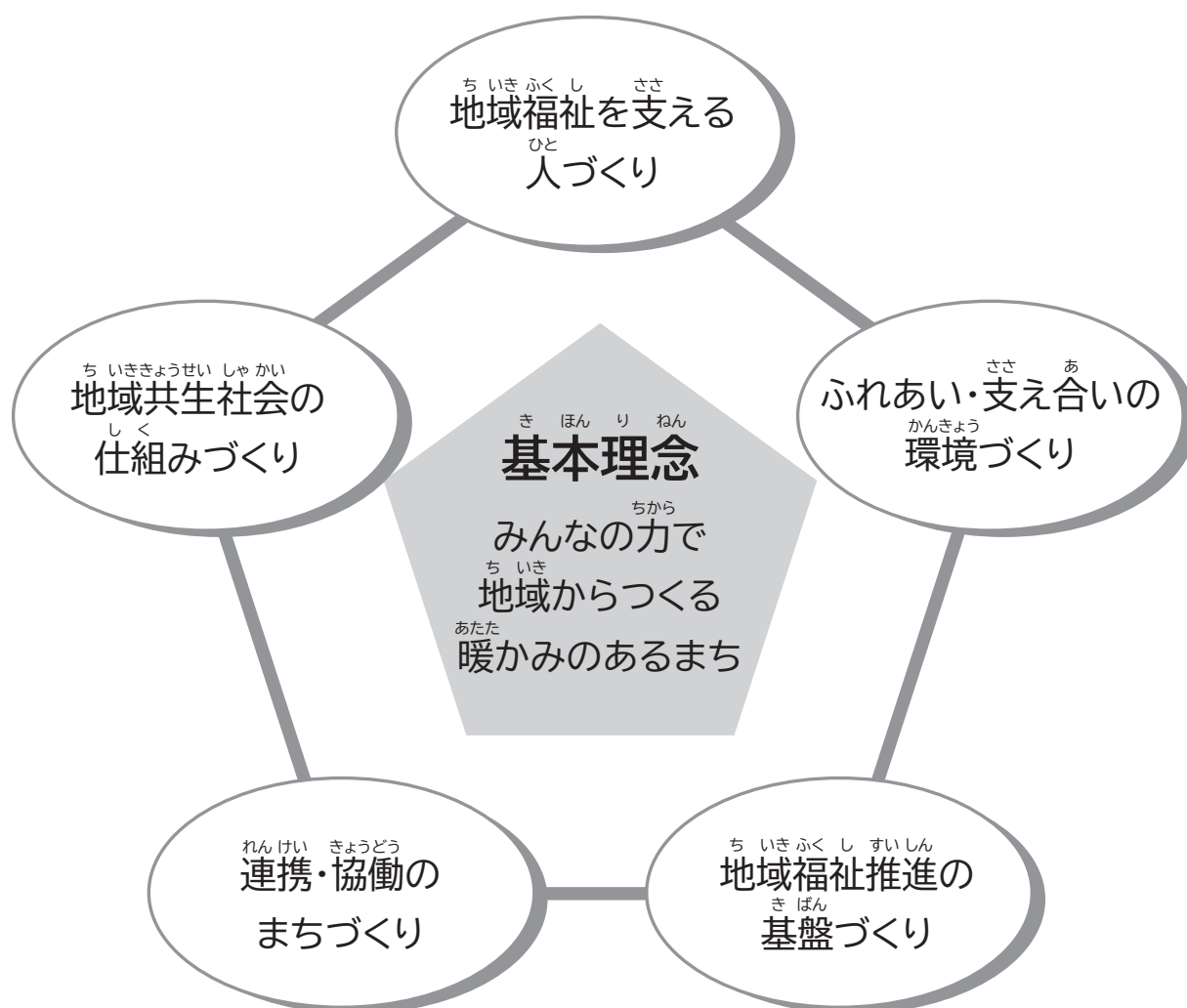
住民がお互いの人権を尊重しながら、ともに支え合い、自分らしく暮らせるよう、地域の多様な生活課題に気づき、その解決に向けて地域全体が一丸となって取り組むまちづくりが求められます。

基本理念

「みんなの力で地域からつくる暖かみのあるまち」

本計画は、四條畷市で暮らすすべての人や関係機関・団体等が、障がいの有無、性別、国籍、文化、年齢等の違いを超えて、それぞれの立場から協力し合い福祉コミュニティをつくり上げていくことを目指すものです。

き ほん り ねん き ほん もく ひょう かん けい ず
 <<基本理念と基本目標の関係図>>



けいかく たいけい
計画の体系

きほんりねん
基本理念

みんなの力で地域からつくる暖かみのあるまち

きほんもくひょう
基本目標

1. 地域福祉を
支える人づくり

2. 地域共生社会の
仕組みづくり

3. ふれあい・支え
合いの環境づくり

4. 連携・協働の
まちづくり

5. 地域福祉推進の
基盤づくり

とく ほうこう
取り組みの方向

1. 支え合い・助け合い活動を
推進します

2. 地域交流の機会や場所をつ
くり、地域の活性化を目指
します

3. 地区福祉委員会の機能を充
実し、小地域ネットワーク
活動を促進します

4. 地域活動団体の連携を強化
します

5. 権利擁護の取り組みを強化
します

6. 福祉情報の提供を充実させ
ます

7. 防災・減災活動を推進しま
す

8. 福祉教育を推進します

9. 地域貢献事業を促進します

10. 社会福祉協議会の基盤を強
化し、総合性を発揮します

基本目標

1. 地域福祉を支える人づくり

住民が地域福祉推進の主体となれるよう、地域を支える力を育てます。

地域で気軽に参加できる「きっかけ」と「仕組み」づくりを行い、新たな人材を育成します。

2. 地域共生社会の仕組みづくり

地域共生社会の実現に向けて、「我が事・丸ごと」の意識づくり・地域づくりの理念を普及させ、推進していきます。

社会福祉協議会としては、地域の福祉活動や小地域ネットワーク活動を支援し、人材の発掘や育成に努めます。

※地域共生社会・・・制度・分野ごとの『縦割り』や「支える側」「支えられる側」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が『我がこと』として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて『丸ごと』つながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域とともに創っていく社会。

3. ふれあい・^{ささ あ}支援^{かんきょう}の環境づくり

ひとりひとりの^{じんけん}人権を^{そんちよう}尊重し、^{たが}互いに^{みと}認め合うことで、^あつながりが生まれます。
^{きんきゆう}緊急時だけではなく、^{にちじよう}日常的に^{たす}助け合い、^あだれもが^{こりつ}孤立することなく暮らせるま
ちづくりを^{すす}進めます。

4. ^{れんけい}連携・^{きようどう}協働のまちづくり

^{じゅうみん}住民や^{かくしゆ}各種^{ちいきだんたい}地域団体、^{ぎようせい}行政や^{しゃかいふくしきようぎかい}社会福祉協議会等が^{れんけい}連携を^{きようか}強化することにより^{あら}新
たな^{きようどう}協働の^{ちから}力を^う生み出^だします。

5. ^{ちいきふくし}地域福祉^{すいしん}推進の^{きばん}基盤づくり

^{しゃかいふくしきようぎかい}社会福祉協議会の^{かつどう}活動をより^{おお}多くの^{じゅうみん}住民へ^{しゅうち}周知・^{こうほう}広報することにより、^{ちいきふくし}地域福祉
^{すいしん}推進を^な担う^{じんざい}人材を^{かくほ}確保し、^{しゆたいせい}主体性のある^{ちいき}地域活動が^{ちいきかつどう}できるよう^{しえん}支援します。

とく ほうこう 取り組みの方向

1. 支援・助け合い活動を推進します

隣近所をはじめ顔の見える関係をつくり、身近なコミュニティの強化を推進します。また、支える側と支えられる側にとらわれない関係づくりを目指します。

- ① 住民同士で支援・助け合える環境づくりを目指します。
- ② 自助・近助・共助・公助ができる体制や新たな人材の発掘・育成に努めます。
- ③ ボランティアが活動を続けていけるようサポートします。

※コミュニティ・・・地域社会ともいい、住民が共同体意識をもって生活を営む、一定の地域及び近隣社会のこと。居住地域に関わらず、同じ目的や関心で結びついた人々の集まりを指す場合もある。

※近助・・・近隣の住民同士での自発的な助け合い

2. 地域交流の機会や場所をつくり、地域の活性化を目指します

住民同士の交流の機会を増やし、環境をつくることにより、意図的に人の集まる流れをつくりだし、多様な環境を持つあらゆる世代の人が集うことのできるコミュニティづくりを推進します。

3. 地区福祉委員会の機能を充実し、小地域ネットワーク活動を促進します

地区福祉委員会は、地域住民が安心して暮らすことのできる住みよいまちづくりを目的とする地域福祉活動の推進役です。人材の発掘や育成に努め、地域の小地域ネットワーク活動や福祉活動を活性化します。

- ① 地区福祉委員を対象とした研修会の開催による資質の向上を行います。
- ② 地区福祉委員会同士の連携強化と相互交流を推進します。
- ③ 地区福祉委員会活動者の発掘・育成に努めます。
- ④ 個別援助活動及びグループ援助活動を推進します。
- ⑤ 孤立しがちな要援護者を支援する小地域ネットワーク活動を推進します。
- ⑥ 要援護者を見守る体制を充実させます。

4. 地域活動団体の連携を強化します

中間支援組織による意図的な交流の機会創設と地域活動団体自身による積極的な交流の取り組みを促進します。住民を巻き込んだ地域の活性化につなげます。

- ① 自治会、民生委員・児童委員、ボランティア団体、社会福祉協議会等による地域における支え合い活動を充実させます。
- ② NPOや地域活動団体等の大小さまざまな組織がつながりあえる環境づくりを推進します。
- ③ NPOや地域活動団体がその活動理念や特性を持ちながらゆるやかに連携し、より活躍できる舞台を用意することで、住民の多様なニーズに柔軟・迅速に対応していきます。

※地域活動団体・・・住民相互の交流を通して市内のコミュニティ形成に寄与する団体。

※中間支援組織・・・行政と地域の間にあって、社会の変化やニーズを把握し、地域におけるさまざまな団体の活動や団体間の連携を支援する組織のこと。

5. 権利擁護の取り組みを強化します

基本的人権を尊重し、住民が不利益を被ることのないよう支援します。専門職や住民組織、民生委員・児童委員、行政、社会福祉協議会等が協働し、制度の狭間で困窮している人への対応や課題解決に向けて取り組みます。

- ① 基本的人権を尊重し、権利侵害を受けることのないよう支援します。
 - ② すべての住民の権利を守るため、専門的支援を強化し、住民への啓発を推進します。
 - ③ 判断能力が不十分な人への日常生活自立支援事業の普及・啓発、円滑支援を行います。
- また、市が推進している成年後見制度の周知に努めます。

6. 福祉情報の提供を充実させます

正しい情報の発信ができるよう情報の伝達を見える化します。わかりやすく、興味を持てる情報の発信を心がけ、福祉サービスに関心をもつ人が増えるよう取り組みます。

- ① 広報誌・ホームページ・口伝等のあらゆる媒体により、地域福祉に関する情報の啓発・拡充を行います。
- ② 住民や地域活動団体、NPO等が発信する情報を集約できるネットワークを構築します。
- ③ すべての住民に必要な情報が届くよう努めます。

※見える化・・・意識しなくても目に入ってくるような仕組みをつくること。

7. 防災・減災活動を推進します

SNS等を使い、災害に関する情報がいち早く住民に届くような仕組みをつくることにより、防災・減災の意識を高め、災害に強いまちづくりを目指します。

- ① 地域の関係機関や各種団体と連携し、それぞれの強みを活かした支援体制を構築しつつ、地区における活動も支援します。
- ② 高齢者や障がい者等の避難行動要支援者への支援体制を整備します。
- ③ 住民の防災意識を高め、福祉施設を含めた地域が一体となった活動を支援します。
- ④ 行政が開催する防災訓練への住民の参加促進や地域での防災訓練への参加を推進します。
- ⑤ 災害時に備えた物資の備蓄や点検を行います。
- ⑥ 社会福祉協議会と青年会議所との協定締結により、災害ボランティアセンター設置・運営の際には協力を求めます。

8. 福祉教育を推進します

福祉教育の展開にあたっては、幼少期から地域福祉に関心を促す福祉教育を展開することが必要です。ともに生きるという関係性をお互いに人として理解し、相互の関わりが大切に育まれる福祉教育を展開していきます。

① 福祉に関する情報提供を行い、地域住民の福祉に関する意識が高まるよ

う啓発を行います。

② 人権に対する意識の向上を図りながら、幅広い年代を対象に福祉学習を

推進します。

③ 社会活動を通して市民性を育む学習やボランティア活動等の地域貢献

学習を積極的に推進します。

④ 子どもの成長に合わせた福祉を学べる段階的な取り組みを提案します。

※市民性・・・よりよい社会の実現のために、周囲の人々と積極的に関わろうとする意欲や行動力のこと。

9. 地域貢献事業を促進します

地域福祉の推進にあたっては、生活に関わる幅広い地域生活課題に対して、住民や福祉関係者、行政や社会福祉協議会等とともに、専門職を有する社会福祉法人との連携・協働が求められています。社会福祉法人による地域における広域的な取り組みを推進します。

- ① 社会福祉施設で構成された地域貢献委員会の活動を周知・啓発します。
- ② 市内の社会福祉施設間の連携を強化し、地域課題を発見・解決していくネットワークを強化します。
- ③ 市内の企業と協働し、それぞれの強みを活かした地域貢献事業を推進します。

10. 社会福祉協議会の基盤を強化し、総合性を発揮します

社会福祉協議会が地域福祉の推進を目的とする団体として、多様な事業展開を図り、各種事業を継続・発展させるためには、財源や人材の確保等の組織運営体制の強化が必要です。地域や行政と課題を認識し合いながら、社会福祉協議会が主体となる事業を推進します。

- ① 生活困窮者自立相談支援事業やコミュニティソーシャルワーカー配置事業、生活支援コーディネーター配置事業等、社会福祉協議会がもつ各種相談機能の有機的な整備に努めます。
- ② 民生委員・児童委員・ボランティア団体等の事務局機能を活かし、市民ニーズに即したものとなるよう各団体の連携強化を促進します。
- ③ 住民のニーズに合わせた社会福祉協議会事業の見直しを行い、新規事業の開拓に努めます。
- ④ 資金面等での支援や協力が得られるよう企業等に働きかけ、自主財源の確保に努めます。
- ⑤ 職員の資質向上と資格取得に向けての環境整備を促進します。

れいわがんねんど ちくふくしいんかいじょうほうこうかいかいほうこく
令和元年度地区福祉委員会情報交換会報告

かいさいにちじ 開催日時	れいわがんねん がつ にち げつ ごご じ ぶん 令和元年11月18日(月) 午後1時30分から午後3時
かいさいばしょ 開催場所	しじょうなわて ししゃかいふくしきょうぎかい かいぎしつ 四條畷市社会福祉協議会 会議室
さんかちくすう 参加地区数	13 ちくふくしいんかい 地区福祉委員会
さんかしゃすう 参加者数	かくちくふくしいんかいいいんおよ ぎょうりよくいん 29 名 各地区福祉委員会委員及び協力員
	しゃかいふくしきょうぎかいじむきょくしよくいん 5 名 社会福祉協議会事務局職員
	ごうけい 34 名 合計

【内 容】

こんかい じょうほうこうかいかい だい きしじょうなわて しちいきふくしかつどうけいかくさくてい
今回の情報交換会については、第4期四條畷市地域福祉活動計画策定にお
いて、ちいき かだいしゅうしゅう わーくしょっぷ か
地域の課題収集のためのワークショップを兼ねる。

あらかじめ、じむきょく じょうほうこうかん ないよう か き さだ
事務局より情報交換いただきたい内容を下記のように定めた。

かだい ちくふくしいん こうれいか
課題① 地区福祉委員の高齢化について

かだい リーダー いくせい
課題② リーダーの育成について

かだい ちくふくしいん はつくつ
課題③ 地区福祉委員の発掘について

かだい たかくぐるーぶ はな あ
課題④ その他各グループで話し合いしたいこと

かだい かせん きんゆう いけん はつびょう たい あとばいす
課題ごとに、それぞれ付箋に記入した意見を発表し、それに対するアドバイス

くふう はな あ もぞうし は
や工夫などを話し合ってもらい、模造紙に貼っていった。

は つ かせん ぐるーぶ か かんけいせい ずかい か
貼り付けた付箋をグループ化し、関係性を図解化した。

【意見】

1. 委員も高齢化になり行事をすることが困難になってきている。委員だけではできない作業も増えている。
2. 参加者から感謝の言葉等をいただくと、励みややりがいを感じる。
3. 「楽しい」という思いがあれば、活動もできる。自分の家族と置き換える。
4. 委員や協力員は女性が多いので身体的な不安を感じる。男性の委員の成り手が少ない。男性を増やすことが課題である。
5. 若い人は仕事を持っており、育成が難しい。
6. 意図的に世代間交流をして地域に関心を持ってもらうことが必要である。
育成会等もうまく巻き込んでいく。若いうちから地域活動に参加してもらい、伝えていく。
7. 委員ではない若い人にも、気軽に「手伝って」と言える関係性を築くことが必要である。

令和元年度地区福祉委員会情報交換会報告

◆ グループA：8名

構成地区・・・田原台・さつきヶ丘/北出町/美田町/雁屋/中野新町/畑中/岡山/楠公

【 集 約 】

	意 見	助 言
課題①	・ 役員のなり手がいない。 ・ 女性中心のため、身体的に不安である。 ・ 活発的な活動ができない。	・ 若い人に委員を依頼する。 ・ 自治会役員が地区福祉委員になっており、年齢が様々である。
課題②	・ 育成に困っている。 ・ 仕事を持つ人が多く、育成が難しい。 ・ なかなか育たない。	・ 各部会に合う方を選んで、担当リーダーになってもらう。 ・ 個々に活動してもらう。 ・ 最初は見よう見まね、ともに考えることを大切にする。
課題③	・ 若い人に地域の会議に出てもらえないので、人材発掘に苦慮している。 ・ 行事のたびに参加の声掛けをしているが、なかなか難しい。	・ （地区福祉員とは何かを）知ってもらうこと。 ・ 仲間で固まらないようにする。 ・ 自分から手を上げてくれる人を見つける。 ・ 行事に参加するのが楽しいと思ってもらう。
課題④		・ ①から③の課題の根っことは同じ。 ・ チームワークができている。

令和元年度地区福祉委員会情報交換会報告

◆ グループB：7名

構成地区・・・二丁通/北出町/美田町/畑中/楠公/砂/緑風台

【 集 約 】

	意 見	助 言
課題①	・委員が固定化している。 ・自分も高齢化している。 ・行事でできない作業が増えた。 ・自治会全体の問題である。 ・働いている人が多い。	・比較的元気な方にバトンタッチする。 ・育成会を終えた50～60歳代に向けてバトンタッチする。
課題②	・人材は豊富だが、忙しい人が多い。 ・若い時から地域活動に参加していないので、リーダー教育ができていない。 ・引継がなく、何をしていいのかわからない時期があった。	・周りが良い人だと嬉しくて続けられる。 ・先輩からのアドバイスがある。 ・自分に期待してくれる人がいると思うと、若いリーダーが育つ。
課題③	・委員の依頼をすると自治会をやめると言われる。 ・どんな人かわからないため、声掛けをする対象かわからない。 ・頼み先がわからない。	・年長者から歩み寄る。 ・口コミが有効である。 ・自治会役員になってもらう。 ・子どもと一緒に親や祖父母も参加してくれる。 ・育成会とともに深める機会を作る。
課題④		・地元愛（自治会区域）があれば、良い方向に進む。

令和元年度地区福祉委員会情報交換会報告

◆ グループC：8名

構成地区・・・田原台・さつきヶ丘/滝木間/北出町/美田町/雁屋/畑中/楠公

【 集 約 】

	意見	助言
課題①	・後継者がいないので、やめられない。 ・持病もあり、肉体的に難しい。 ・40～60歳代の人材が少ない。 ・若い人に参加してもらえる方法が知りたい。	・委員自身も高齢化であり、活動することで、お互いの安否確認になっている。 ・みんなと楽しむ場となっている。 ・地域の人から声を掛けてもらえる喜びがある。
課題②	・若い人に出てきてほしい。 ・積極的に「こうしよう」という意見が出てこない。 ・育成方法がわからない。 ・協力員の中から役員を決めることが難しい。	
課題③	・人材がいない。 ・断られることが多い。 ・人材はいるが、なかなか出てきてもらえない。	・若い人に地域活動を周知する。 ・参加して「楽しい」と思ってもらおう。 ・家族の協力を得る。 ・自分の親のことを考えると協力しようと思う。
課題④	・町会自体の運営も難しくなりつつある。 ・手工芸等、製作時間の工夫が必要である。 ・男性参加者が少ない。	・事前準備をすることで時間短縮を図る。 ・男性中心の企画をする。 ・地域の事業所の出前講座等を活用する。 ・参加費を高く設定しない。

令和元年度地区福祉委員会情報交換会報告

◆ グループD : 6名

構成地区・・・滝木間/北出町/美田町/雁屋/畑中/中野新町

【 集 約 】

	意 見	助 言
課題①	・女性が多く、男性が少ない。 ・行事ができない。 ・自治会役員が兼務する状態である。 ・実際に動ける人がいない。	・世代交代しやすい、若い人がやりやすい活動をする。
課題②	・男性のリーダーの成り手がない。 ・育成できる環境がない。 ・福祉を難しく考えているのではないか。 ・高齢化のため成り手がない。	・前例踏襲ではなく、新しい感性を取り入れる。 ・社会福祉協議会で地区福祉委員研修をする。
課題③	・協力者が少ない（特に男性）。 ・自治会や組長の中から探している。	・自治会の行事を通して探す。 ・世代間の交流をする。 ・顔を知ってもらい、話しやすい環境を作る。
課題④	・委員の仕事がわからない。 ・地域に引きこもりの人がいるのかわからない。 ・対話が必要と感じる。 ・家族から少しは身体を労わるようにと心配される。	

れいわがんねんどみたちょうちくふくしいんかいわーくしょっぶほうこく
令和元年度美田町地区福祉委員会ワークショップ報告

かいさいにちじ 開催日時	れいわがんねん 11月14日（木）午後3時10分から午後4時20分
かいさいばしょ 開催場所	みたちょうこうみんかん 美田町公民館
さんかしゃすう 参加者数	みたちょうちくふくしいんかいわーくしょっぶほうこく 美田町地区福祉委員会委員及び協力員 7名
	しゃかいふくしきょうぎかいじむきょくしよくいん 社会福祉協議会事務局職員 2名
	ごうけい 合計 9名

【内 容】

だい 4 期四 條 暇 市 地 域 福 祉 活 動 計 画 策 定 に お い て、 地 域 の 課 題 収 集 の た め、
みたちょうちくふくしいんかいわーくしょっぶほうこく
美田町地区福祉委員及び協力員のご協力のもと、ワークショップを開催した。
じむきょくよりわーくしょっぶほうこく
事務局よりワークショップのテーマを下記のように定めた。

かだい ① ちくふくしいん こうれいか
課題① 地区福祉委員の高齢化について

かだい ② りーだー いくせい
課題② リーダーの育成について

かだい ③ ちくふくしいん はくつ
課題③ 地区福祉委員の発掘について

かだい ④ た
課題④ その他について

かだい
課題ごとに、それぞれ付箋に記入した意見を発表し、それに対するアドバイスや
くふう 工夫などを話し合ってもらい、模造紙に貼っていった。
は 貼 り 付 け た 付 箋 を グ ル ー プ 化 し、 関 係 性 を 図 解 化 し た。

【意見】

1. 委員が高齢化している。定年の延長や若者の地域活動への関心が薄れている等の背景があるのではないか。
2. 若い人は仕事をしており、忙しいため、そのことを理由に断られる。
3. 自身が高齢であっても、楽しく地域活動を行っている。若い人たちにもそのことが伝われば、参加につながるのではないか。
4. 地域活動に参加したい気持ちはあっても役職に就くことは避けたい。一方で、役職に就いていない場合、参加しづらい（特に男性）のではないか。
5. 家族で参加できるような行事を行うことによって、世代を超えた交流につながる。四季のイベント事に関連する行事を行うことで、毎年の楽しみとなる。
6. 気軽に頼り合える関係性を構築していくことが重要である。
7. 同じ地域で生活している者同士でのつながりを大切にし、活動を長くしていきたい。そのためにはチームワークが必要である。

令和元年度美田町地区福祉委員会ワークショップ報告

【 集 約 】

	意 見	助 言
課題①	・ 75歳以上の占める割合が多い。 ・ 若者が興味がない。 ・ 定年が延長している（稼働年齢層が高い）。 ・ 高齢化に伴い、体力的に厳しくなっている。 ・ 若い人にももう少し参加してもらいたい。	・ 高齢であっても、楽しみになっている。 ・ 世帯構成員数の減少等、現実的な問題がある。
課題②	・ よい人材がいるが、眠っている。 ・ 責任を持ちたくない。 ・ 役職に就くことを避ける。 ・ 現状、育成に困っている。 ・ 役員を終えらと、参加しなくなる。	・ 社会福祉協議会で研修会を行う。 ・ 次の世代に引き継いでいく。
課題③	・ 声をかけても断られる。 ・ 次の世代に参加してほしい。 ・ 若い人は仕事があり、忙しい。 ・ 他人より自分のことになっている。 ・ 認知度が低い。 ・ 大変なイメージがある。	・ きっかけづくりが必要。 ・ 他団体（自治会、老人会、育成会など）と協働していく。 ・ 気軽に声かけできる関係性の構築が重要である。 ・ 子どもが喜ぶことをする。 ・ 地域の活性化につながる認識をもってもらう。
課題④	・ 地域でのつながりが重要である。 ・ 個人情報取り扱いが以前より強化された。 ・ 新しい意見を出し合い、もっといろんなことをやりたい。	・ 培ってきたチームワークでお互いに補い合っている。 ・ 家族で参加できるようなイベントを催すことで、世代間交流につながる。 ・ 自分の身体を大切にしながら、楽しむ。 ・ それぞれの違いを認め合い、活動に活かす。

しじょうなわて し
四條畷市

ちいきふくしかつどうけいかく あ ん けー と ちょうさ
地域福祉活動計画アンケート調査

ほうこくしよ
報告書

れい わ がんねん がつ
令和元年 11 月

しじょうなわてししゃかいふくしきょうぎかい
四條畷市社会福祉協議会

目 次

I 調査概要	34
1. 調査の目的	34
2. 調査対象	34
3. 調査方法	34
4. 調査期間	34
5. 回収結果	34
6. 報告書の見方	34
II 調査結果	35
回答者の属性	35
(ア) 性別	35
(イ) 年齢	35
(ウ) 職業	36
(エ) 家族構成	37
(オ) 現在の住まい	38
1. 地域での生活や関わりについて	39
(問1) ふだんの近所づきあいの程度	39
(問2) 暮らしの中での困りごと	40
(問3) 困りごとを抱えている人への対応	42
(問4) 地域における人と人の関わりについての考え	43
(問5) 困りごとの相談相手	44
(問6) 助けが必要になったとき、希望する支援	46
2. 「福祉」や「福祉サービス」について	48
(問7) 「福祉」に関する関心の有無	48
(問8) 「福祉サービス」に関する情報源や相談相手	49
3. 地域活動やボランティア活動について	51
(問9) 地域活動・ボランティア活動の参加状況	51
(問10) 参加している地域活動・ボランティア活動の内容	52
(問11) 地域活動・ボランティア活動に参加して良かった点	54
(問12) よりよい地域活動・ボランティア活動のために、改善が求められていること	56
(問13) ボランティア活動における高齢化問題の有無	58
(問14) ボランティア高齢化問題を解決する方法	60
4. まわりの支援機関について	62
(問15) 社会福祉協議会の認知状況	62
(問16) 知っている社会福祉協議会の活動	63
(問17) 民生委員・児童委員の認知状況	65
(問18) 知っている民生委員・児童委員の活動	66
(問19) 地区福祉委員会の認知状況	68

(問20) 知っている地区福祉委員会の活動.....	69
(問21) コミュニティソーシャルワーカー（CSW）の認知状況.....	71
(問22) 知っているコミュニティソーシャルワーカー（CSW）の活動.....	72
(問23) 権利擁護の認知状況.....	74
(問24) 知っている権利擁護.....	75
(問25) インターネットの利用状況.....	77

I 調査概要

1. 調査の目的

「第4期四條畷市地域福祉活動計画」の策定にあたり、地域における福祉活動の現状及び課題、福祉に関するニーズ等を把握し、計画策定の基礎資料とするとともに、今後の取り組みの参考とするために、調査を実施した。

2. 調査対象

四條畷市に在住・在勤・在学している人、四條畷市で活動を行う人

3. 調査方法

郵送による配布と回収

4. 調査期間

令和元年8月2日（金）から9月30日（月）まで

5. 回収結果

配布数	回収数	有効回答数	有効回答率
752 件	448 件	448 件	59.6%

6. 報告書の見方

- (1) 図表中の「n (number of case)」は、有効標本数（集計対象者総数）を表しています。
- (2) 回答結果の割合「%」は、有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答であっても合計値が100.0%にならない場合があります。
- (3) 複数回答の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示し、そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- (4) 図表中において「無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が著しく困難なものです。
- (5) 本調査の回答者においては、「19歳まで」は0人、「20歳から39歳」は6人と少数であったため、年齢別のクロス集計では、「20歳から39歳」の年齢層を分析対象から除外しています。

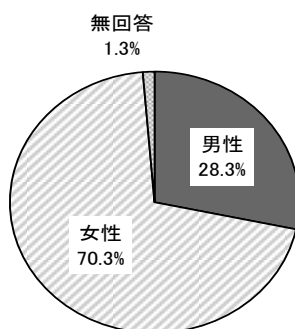
Ⅱ 調査結果

回答者の属性

(ア) 性別

「男性」が28.3%、「女性」が70.3%となっており、女性が約7割を占めている。

図 性別



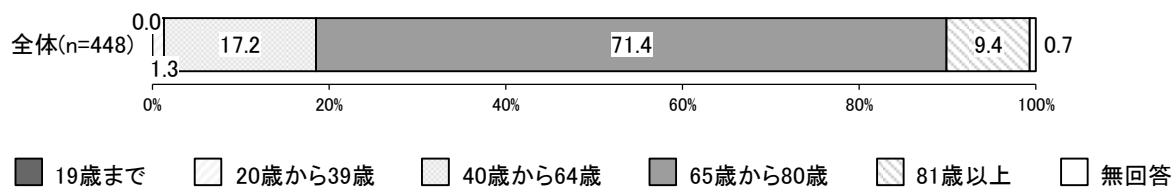
(イ) 年齢

(n=448)

「65歳から80歳」が71.4%で最も高く、次いで「40歳から64歳」が17.2%、「81歳以上」が9.4%である。

性別でみると、男性は女性に比べて「40歳から64歳」の割合が低く、65歳以上が89.8%を占めている。

図 年齢



■ 19歳まで □ 20歳から39歳 □ 40歳から64歳 ■ 65歳から80歳 ▨ 81歳以上 □ 無回答

表 性別 年齢

		(%)	回答者数 (n)	19歳まで	20歳から39歳	40歳から64歳	65歳から80歳	81歳以上	無回答
全体			448	-	1.3	17.2	71.4	9.4	0.7
性別	男性		127	-	1.6	7.9	75.6	14.2	0.8
	女性		315	-	1.0	21.0	70.5	7.6	-

(ウ) 職業

「無職」が36.8%で最も高く、次いで「家事専業」が35.0%、「パート・アルバイト」が13.8%となっている。職業を持っている人（「会社員、団体職員」、「公務員」、「自営業（農業を除く）」、「農業等」、「パート・アルバイト」の合計）が25.4%、職業を持っていない人（「無職」、「家事専業」の合計）が71.8%となっている。

性別でみると、男性は「無職」が66.1%で、女性は「家事専業」が49.8%となっている。

年齢別でみると、40歳から64歳ではフルタイム（「会社員、団体職員」、「公務員」、「自営業（農業を除く）」）以外の割合は76.7%であるが、65歳から80歳、81歳以上では、それぞれ91.9%、95.3%となっている。

図 職業

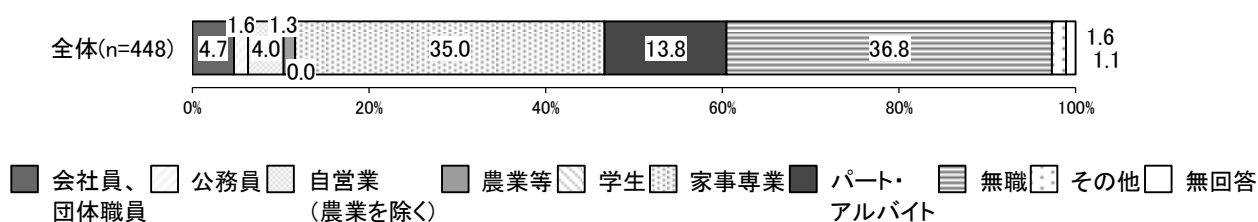


表 性別、年齢別 職業

(%)

		回答者数 (n)	会社員、 団体職員	公務員	自営業 (農業を除く)	農業等	学生	家事専業	パート・ アルバイト	無職	その他	無回答
全体		448	4.7	1.6	4.0	1.3	-	35.0	13.8	36.8	1.6	1.1
性別	男性	127	7.9	2.4	7.1	2.4	-	-	11.0	66.1	2.4	0.8
	女性	315	3.2	1.3	2.9	1.0	-	49.8	14.9	25.1	1.3	0.6
年齢別	40歳から64歳	77	13.0	5.2	3.9	1.3	-	31.2	40.3	3.9	-	1.3
	65歳から80歳	320	2.5	0.9	4.4	0.9	-	39.1	9.4	40.9	1.6	0.3
	81歳以上	42	-	-	2.4	4.8	-	14.3	2.4	71.4	2.4	2.4

(工) 家族構成

「夫婦のみ」が41.7%で最も高く、次いで「二世世代世帯（親と子）」が34.4%、「ひとり暮らし（単身）」が13.2%、「三世世代世帯（親と子と孫）」が8.3%となっている。

性別でみると、男性は「夫婦のみ」が51.2%で半数を超えている。男性よりも女性の方が「ひとり暮らし（単身）」、「二世世代世帯（親と子）」、「三世世代世帯（親と子と孫）」の割合が高くなっている。

年齢別でみると、年齢が高くなるほど「ひとり暮らし（単身）」の割合が高くなっている。40歳から64歳では「二世世代世帯（親と子）」が46.8%で最も高く、65歳から80歳、81歳以上では「夫婦のみ」の割合が最も高く、それぞれ46.6%、42.9%となっている。

図 家族構成

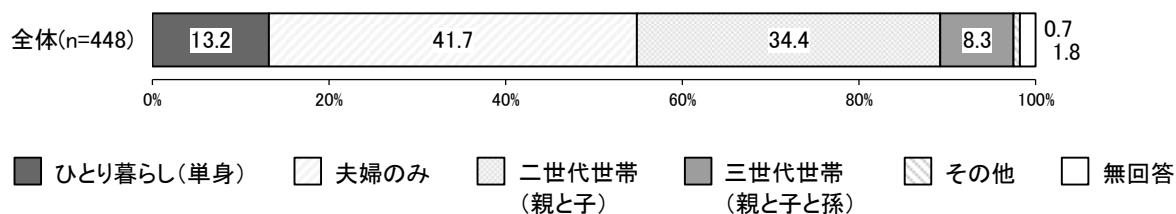


表 性別、年齢別 家族構成

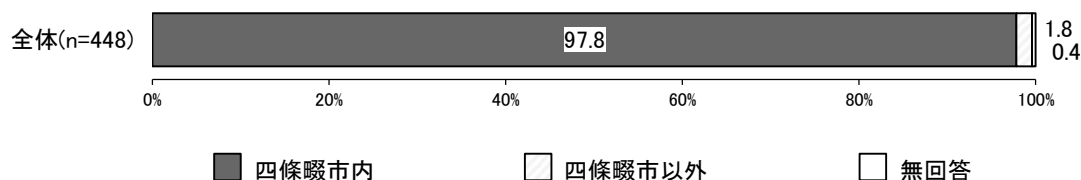
(%)

		回答者数(n)	ひとり暮らし(単身)	夫婦のみ	二世世代世帯(親と子)	三世世代世帯(親と子と孫)	その他	無回答
全体		448	13.2	41.7	34.4	8.3	0.7	1.8
性別	男性	127	11.8	51.2	27.6	6.3	2.4	0.8
	女性	315	14.0	38.4	37.1	8.9	-	1.6
年齢別	40歳から64歳	77	11.7	24.7	46.8	11.7	1.3	3.9
	65歳から80歳	320	13.1	46.6	31.3	7.8	0.3	0.9
	81歳以上	42	19.0	42.9	28.6	7.1	2.4	-

(オ) 現在の住まい

「四條畷市内」が 97.8%、「四條畷市以外」が 1.8%となっている。大半が四條畷市内在住者である。

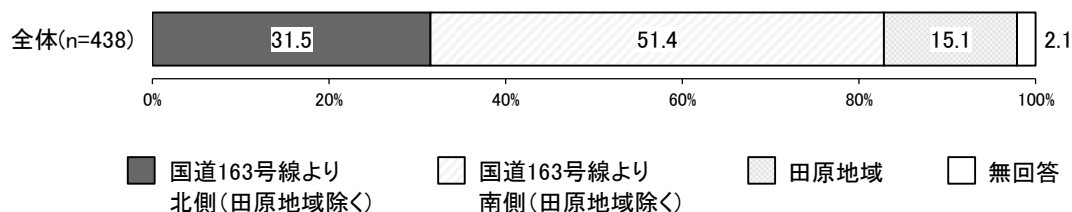
図 現在の住まい



居住地区

「国道 163 号線より南側（田原地域除く）」が 51.4%で最も高く、次いで「国道 163 号線より北側（田原地域除く）」が 31.5%、「田原地域」が 15.1%となっている。

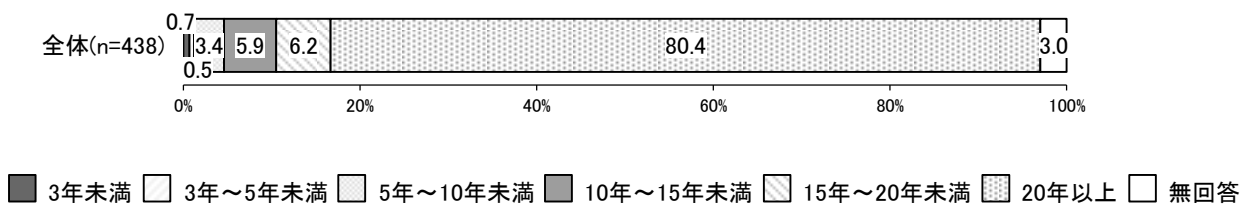
図 居住地区



居住年数

「20 年以上」が 80.4%で最も高く、次いで「15 年～20 年未満」が 6.2%、「10 年～15 年未満」が 5.9%、「5 年～10 年未満」が 3.4%、「3 年未満」が 0.7%、「3 年～5 年未満」が 0.5%となっている。居住年数 10 年以上が 9 割以上を占めている。

図 居住年数



1. 地域での生活や関わりについて

(1) ふだんの近所づきあいの程度

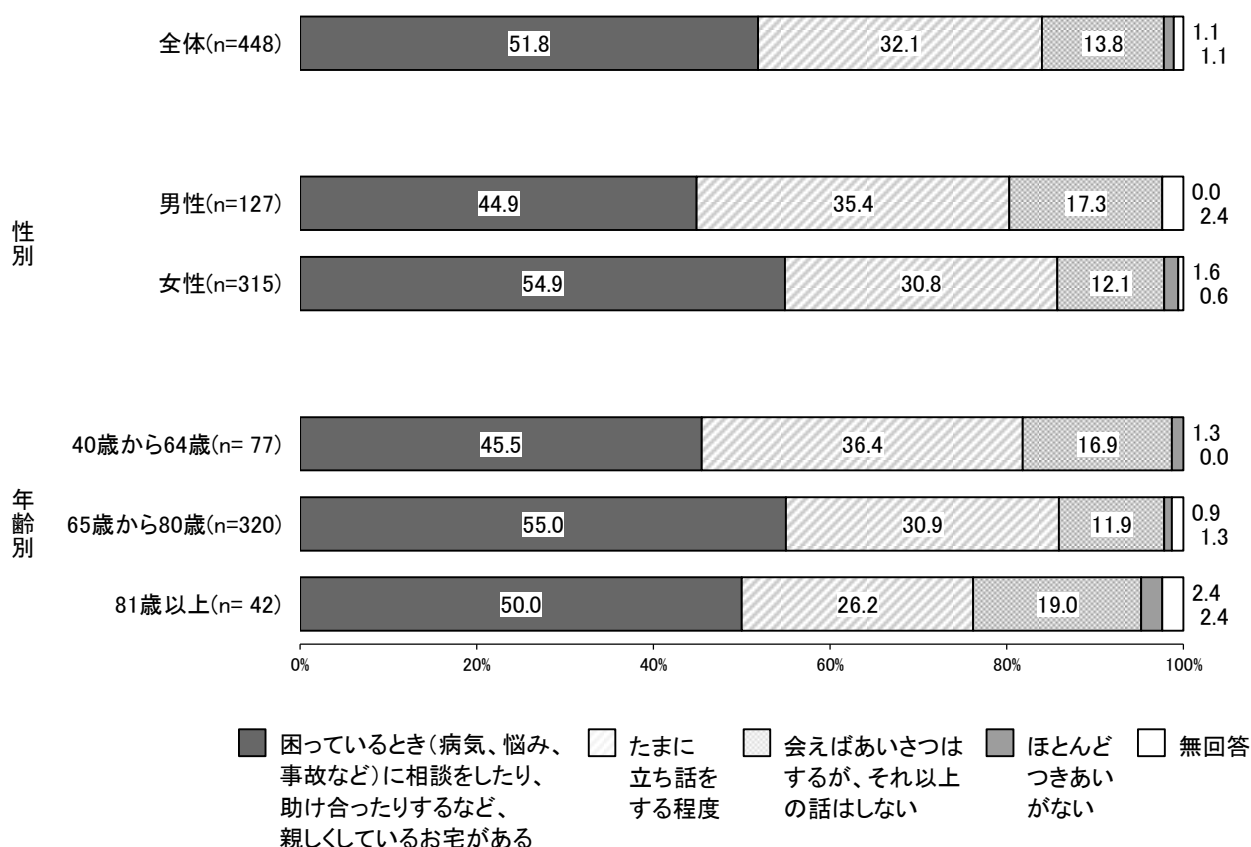
(問1) あなたは、ふだんご近所とどの程度のつきあいがありますか？（ひとつだけ○）

ふだんの近所づきあいの程度をみると、「困っているとき（病気、悩み、事故など）に相談をしたり、助け合ったりするなど、親しくしているお宅がある」が51.8%で最も高く、次いで「たまに立ち話をする程度」が32.1%、「会えばあいさつはするが、それ以上の話はしない」が13.8%となっている。

性別でみると、女性では「困っているとき（病気、悩み、事故など）に相談をしたり、助け合ったりするなど、親しくしているお宅がある」が54.9%で、男性より10ポイント高くなっている。

年齢別でみると、65歳から80歳では「困っているとき（病気、悩み、事故など）に相談をしたり、助け合ったりするなど、親しくしているお宅がある」が最も高く55.0%となっている。81歳以上では「たまに立ち話をする程度」が他の年齢と比べて低く、「会えばあいさつはするが、それ以上の話はしない」が他の年齢と比べて高くなっている。

図 性別、年齢別 ふだんの近所づきあいの程度

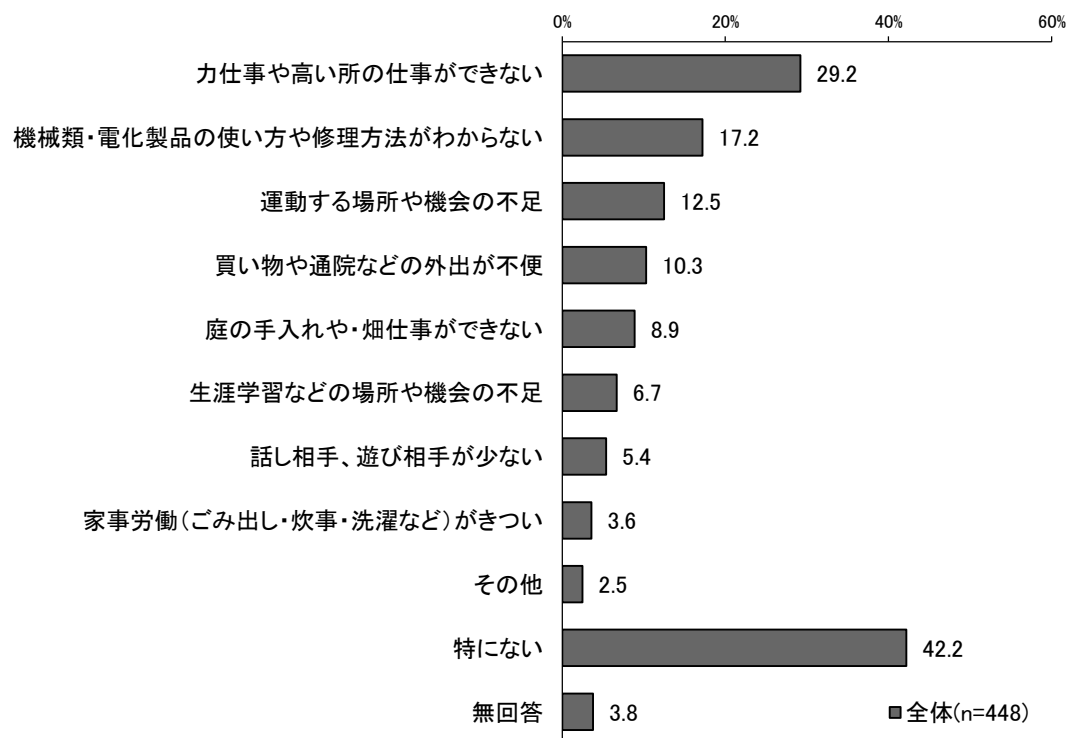


(2) 暮らしの中での困りごと

(問2) あなたは、毎日の暮らしの中で、どのような困りごとがありますか？(○は3つまで)

暮らしの中での困りごとをみると、「特にない」が42.2%で最も高くなっている。次いで「力仕事や高い所の仕事ができない」が29.2%、「機械類・電化製品の使い方や修理方法がわからない」が17.2%、「運動する場所や機会の不足」が12.5%、「買い物や通院などの外出が不便」が10.3%となっている。

図 暮らしの中での困りごと



性別でみると、男女とも「特にない」が最も高く、女性のほうが男性と比べてやや高くなっている。次いで、男性は「運動する場所や機会の不足」、女性は「機械類・電化製品の使い方や修理方法がわからない」が高くなっている。

年齢別でみると、40 歳から 64 歳では「特にない」が 53.2%と高くなっているが、81 歳以上では 26.2%と低く半分になっている。81 歳以上では「力仕事や高い所の仕事ができない」が 54.8%と高くなっている。

表 性別、年齢別 暮らしの中での困りごと

		回答者数 (n)	力仕事や高い所の仕事ができない	機械類・電化製品の使い方や修理方法がわからない	運動する場所や機会の不足	買い物や通院などの外出が不便	庭の手入れや・畑仕事ができない	生涯学習などの場所や機会の不足	話し相手、遊び相手が少ない	家事労働（ごみ出し・炊事・洗濯など）がきつい	その他	特にない	無回答
全体		448	29.2	17.2	12.5	10.3	8.9	6.7	5.4	3.6	2.5	42.2	3.8
性別	男性	127	27.6	13.4	17.3	8.7	7.1	8.7	7.1	4.7	6.3	40.2	3.9
	女性	315	30.2	19.0	10.8	10.8	9.8	5.7	4.4	2.9	1.0	42.9	3.8
年齢別	40 歳から 64 歳	77	14.3	10.4	20.8	7.8	9.1	9.1	9.1	2.6	1.3	53.2	-
	65 歳から 80 歳	320	29.7	18.8	10.3	10.0	8.8	5.9	3.1	2.8	2.2	41.6	5.0
	81 歳以上	42	54.8	21.4	16.7	14.3	9.5	7.1	11.9	11.9	4.8	26.2	2.4

(%)

(3) 困りごとを抱えている人への対応

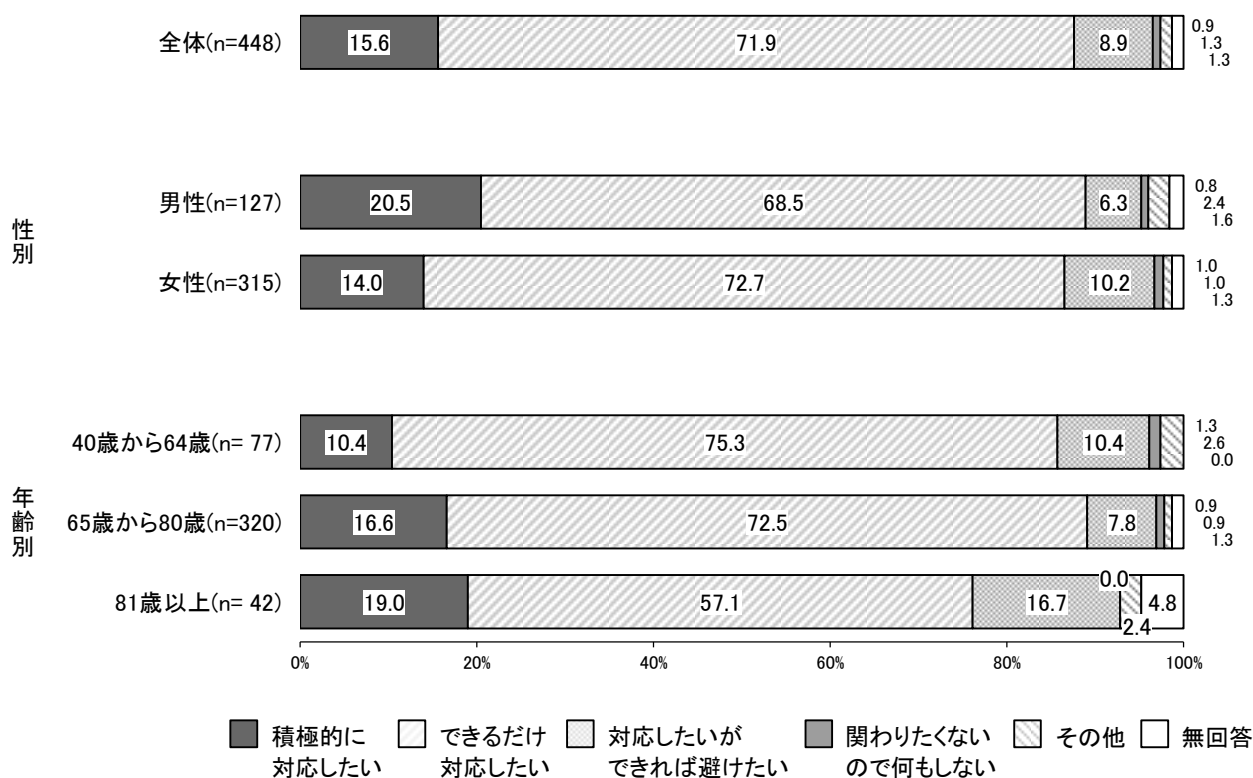
(問3) あなたの身近なところで、困りごとを抱えている人たちから助けの求めがあったとき、あなた自身はどう対応したいと思いますか？(ひとつだけ○)

困りごとを抱えている人への対応をみると、「できるだけ対応したい」が71.9%、「積極的に対応したい」が15.6%、「対応したいができれば避けたい」が8.9%となっている。

性別でみると、男性では「積極的に対応したい」が20.5%と女性より6.5ポイント高くなっている。女性では「対応したいができれば避けたい」が10.2%と約1割を占めている。

年齢別でみると、年齢が高くなるほど「積極的に対応したい」が高くなっており、81歳以上では19.0%となっているが、81歳以上では「対応したいができれば避けたい」も他の年齢より高く16.7%となっている。

図 性別、年齢別 困りごとを抱えている人への対応



(4) 地域における人と人の関わりについての考え

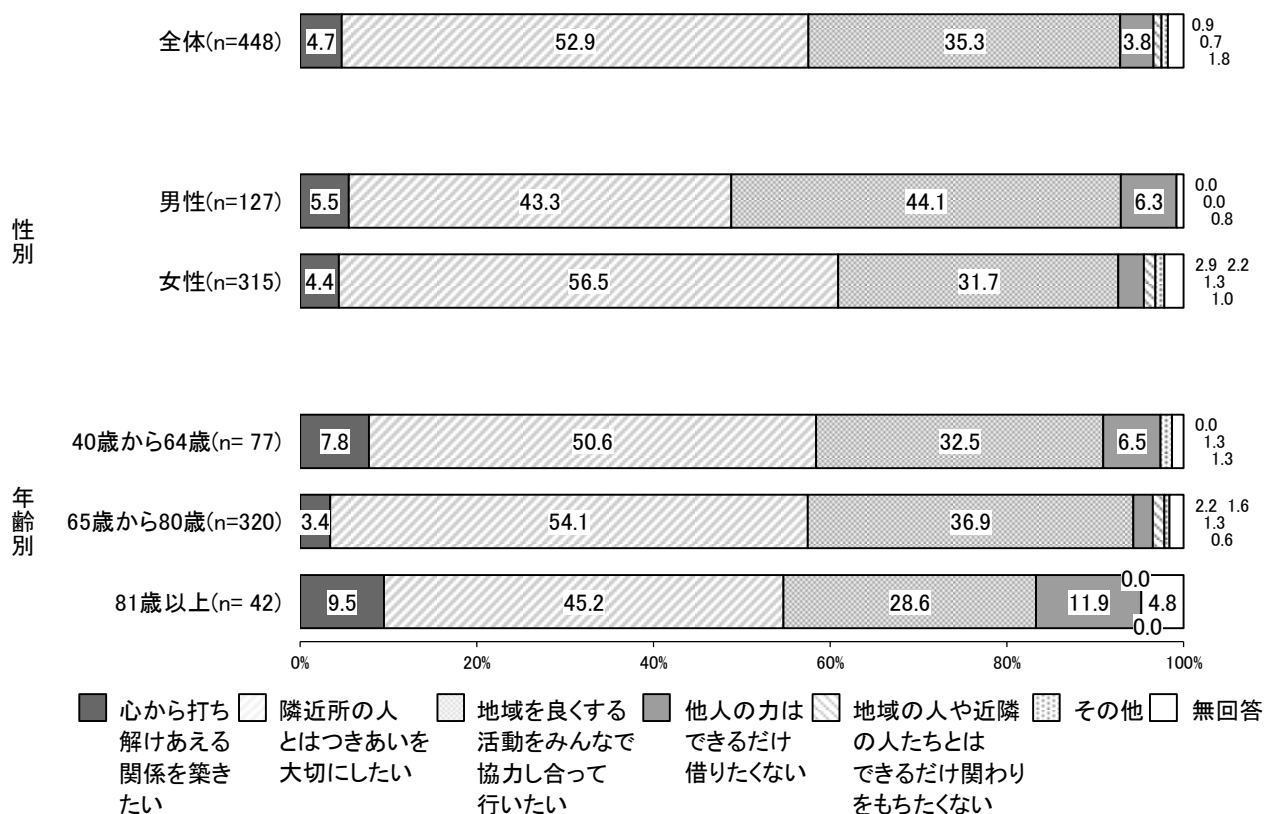
(問4) あなたは地域で人と人の関わりについて、どのように考えていますか？(ひとつだけ○)

地域における人と人の関わりについての考えをみると、「隣近所の人とはつきあいを大切にしたい」が52.9%で最も高く、次いで「地域を良くする活動をみんなで協力し合って行いたい」が35.3%、「心から打ち解けあえる関係を築きたい」が4.7%、「他人の力はできるだけ借りたくない」が3.8%、「地域の人や近隣の人たちとはできるだけ関わりをもちたくない」が0.9%となっている。9割以上が地域の人との関わりを大切に考えている様子がうかがえる。

性別でみると、男性では「地域を良くする活動をみんなで協力し合って行いたい」が44.1%で最も高く、女性では「隣近所の人とはつきあいを大切にしたい」が56.5%で最も高くなっている。

年齢別でみると、81歳以上では「心から打ち解けあえる関係を築きたい」が他の年齢よりやや高くなっているが、「他人の力はできるだけ借りたくない」も11.9%と他の年齢より高くなっている。

図 性別、年齢別 地域における人と人の関わりについての考え

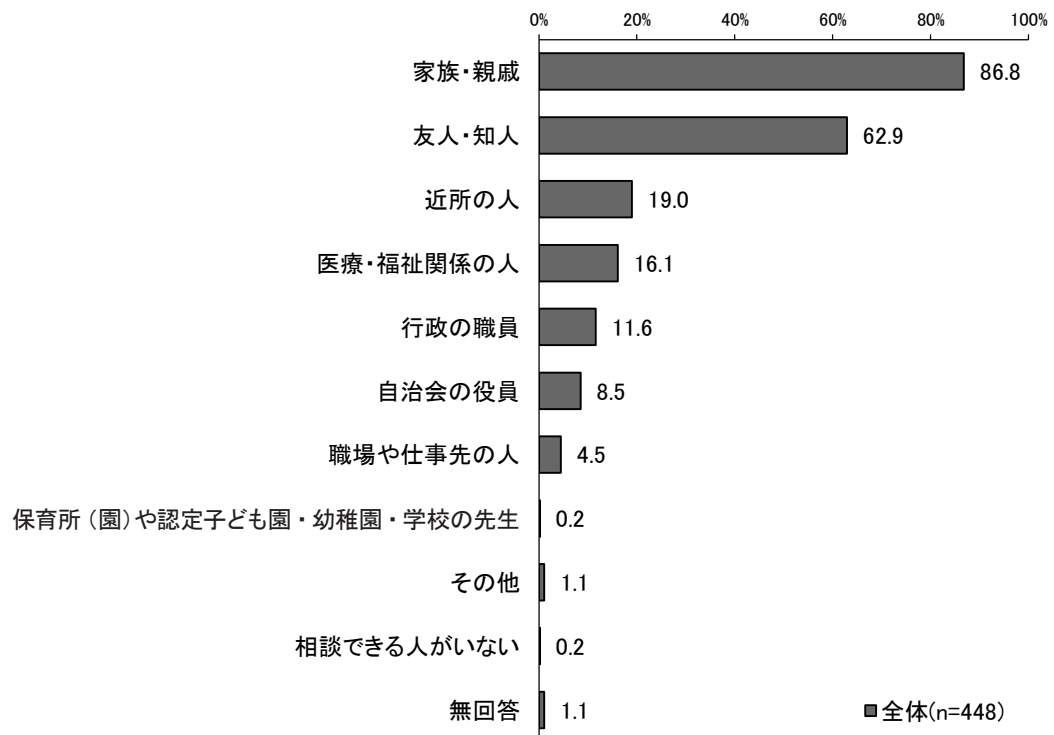


(5) 困りごとの相談相手

(問5) あなたは困りごとがあったときに、誰に相談しますか？(○は3つまで)

困りごとの相談相手をみると、「家族・親戚」が86.8%で最も高く、次いで「友人・知人」が62.9%、「近所の人」が19.0%、「医療・福祉関係の人」が16.1%、「行政の職員」が11.6%となっている。

図 困りごとの相談相手



性別でみると、男女とも「家族・親戚」、「友人・知人」の順で高くなっており、女性では「友人・知人」が男性より18.3ポイント高くなっている。男性では「近所の人」、医療・福祉関係の人、「行政の職員」、「自治会の役員」が2割前後といずれも女性より高くなっている。

年齢別でみると、81歳以上では「家族・親戚」が90.5%と高くなっている。40歳から64歳では「友人・知人」が70.1%と高くなっている。81歳以上では「自治会の役員」が16.7%と他の年齢より高くなっている。

表 性別、年齢別 困りごとの相談相手

(%)

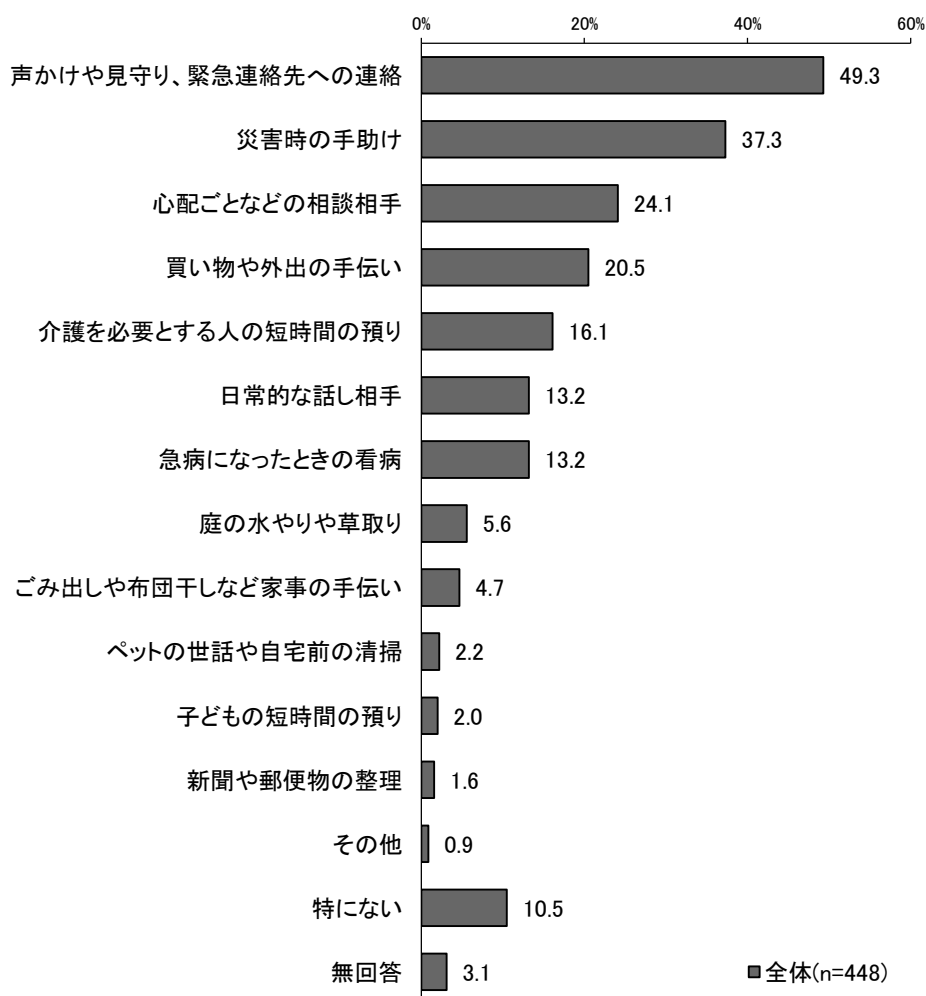
		回答者数(n)	家族・親戚	友人・知人	近所の人	医療・福祉関係の人	行政の職員	自治会の役員	職場や仕事先の人	保育所(園)や認定こども園・幼稚園・学校の先生	その他	相談できる人がいない	無回答
全体		448	86.8	62.9	19.0	16.1	11.6	8.5	4.5	0.2	1.1	0.2	1.1
性別	男性	127	80.3	49.6	20.5	22.0	18.1	17.3	2.4	-	2.4	-	0.8
	女性	315	89.5	67.9	18.7	14.0	8.9	5.1	5.4	0.3	0.6	0.3	1.3
年齢別	40歳から64歳	77	77.9	70.1	15.6	6.5	7.8	5.2	14.3	1.3	1.3	1.3	1.3
	65歳から80歳	320	88.1	62.2	20.0	18.1	12.8	8.4	2.2	-	0.9	-	0.6
	81歳以上	42	90.5	50.0	21.4	21.4	11.9	16.7	-	-	-	-	4.8

（６）助けが必要になったとき、希望する支援

（問６）あなたやご家族に助けが必要になったとき、どのような支援をしてほしいと思いますか？（○は３つまで）

助けが必要になったとき、希望する支援をみると、「声かけや見守り、緊急連絡先への連絡」が 49.3% で最も高く、次いで「災害時の手助け」が 37.3%、「心配ごとなどの相談相手」が 24.1%、「買い物や外出の手伝い」が 20.5%、「介護を必要とする人の短時間の預り」が 16.1%、「日常的な話し相手」と「急病になったときの看病」がともに 13.2%、「特にない」が 10.5%となっている。

図 助けが必要になったとき、希望する支援



性別でみると、男女とも「声かけや見守り、緊急連絡先への連絡」が最も高くほぼ同率となっている。男性では「日常的な話し相手」と「急病になったときの看病」が女性より約 10 ポイント高く、女性では「買い物や外出の手伝い」と「介護を必要とする人の短時間の預り」が男性より約 7 ポイント高くなっている。

年齢別でみると、81 歳以上では「心配ごとなどの相談相手」と「日常的な話し相手」がそれぞれ 38.1%、26.2%と高くなっており、「急病になったときの看病」も 21.4%と他の年齢より高くなっている。

表 性別、年齢別 助けが必要になったとき、希望する支援

(%)

		回答者数 (n)	声かけや見守り、緊急連絡先への連絡	災害時の手助け	心配ごとなどの相談相手	買い物や外出の手伝い	介護を必要とする人の短時間の預り	日常的な話し相手	急病になったときの看病	庭の水やりや草取り	ごみ出しや布団干しなど家事の手伝い	ペットの世話や自宅前の清掃	子どもの短時間の預かり	新聞や郵便物の整理	その他	特にない	無回答
全体		448	49.3	37.3	24.1	20.5	16.1	13.2	13.2	5.6	4.7	2.2	2.0	1.6	0.9	10.5	3.1
性別	男性	127	48.8	35.4	26.0	14.2	11.0	19.7	20.5	2.4	4.7	2.4	0.8	2.4	1.6	11.8	1.6
	女性	315	49.8	38.1	23.8	22.5	18.4	9.8	10.2	7.0	4.8	2.2	2.2	1.3	0.6	10.2	3.8
年齢別	40 歳から 64 歳	77	41.6	40.3	29.9	18.2	20.8	7.8	13.0	2.6	9.1	3.9	3.9	1.3	1.3	13.0	1.3
	65 歳から 80 歳	320	52.8	36.6	21.3	22.2	15.9	12.5	12.2	5.9	4.1	2.2	1.3	1.9	0.6	10.6	3.8
	81 歳以上	42	40.5	35.7	38.1	11.9	11.9	26.2	21.4	9.5	-	-	-	-	-	7.1	2.4

2. 「福祉」や「福祉サービス」について

(1) 「福祉」に関する関心の有無

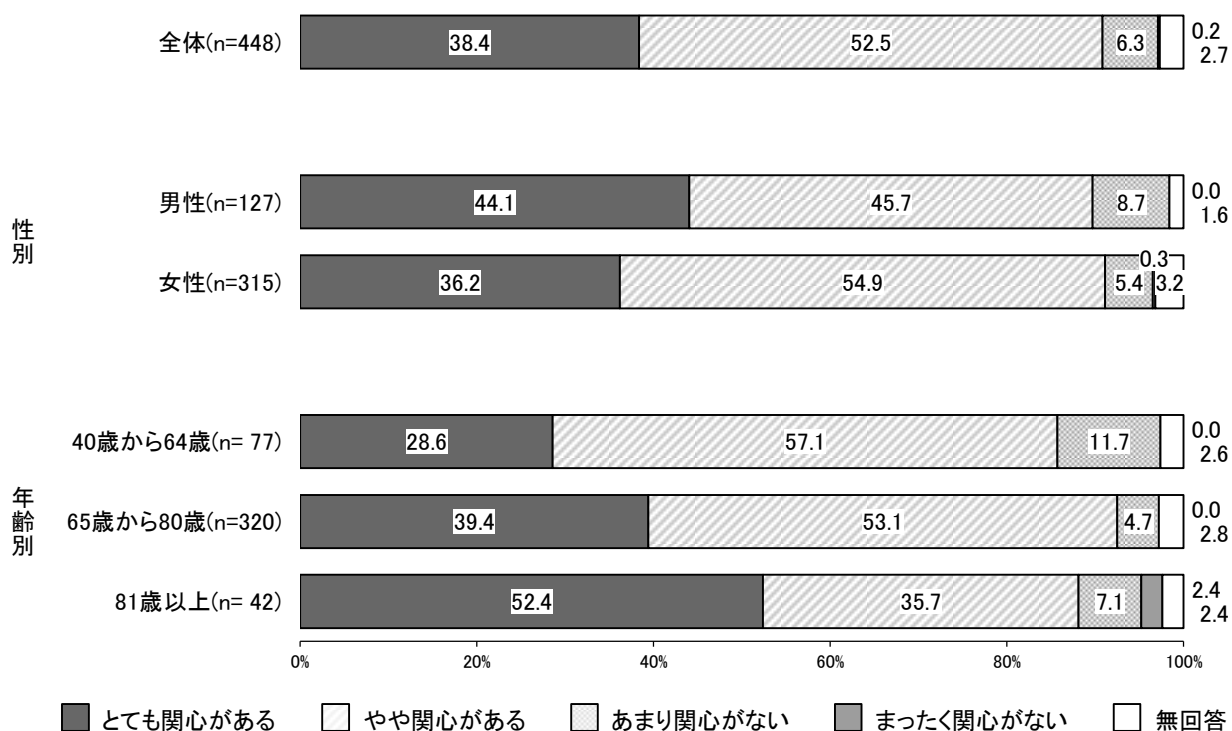
(問7) あなたは「福祉」に関心をお持ちですか？(ひとつだけ○)

「福祉」に関する関心の有無をみると、「やや関心がある」が 52.5%、「とても関心がある」が 38.4%、「あまり関心がない」が 6.3%となっている。『関心がある』(「とても関心がある」と「やや関心がある」の合計)は 90.9%、『関心がない』(「まったく関心がない」と「あまり関心がない」の合計)は 6.5%となっている。

性別でみると、男性では『関心がある』が 89.8%、『関心がない』が 8.7%、女性では『関心がある』が 91.1%、『関心がない』が 5.7%となっており、女性のほうが男性よりわずかに関心度が高くなっている。

年齢別でみると、81 歳以上では「とても関心がある」が 52.4%と最も高く 5 割を超えている。65 歳から 80 歳では『関心がある』が 92.5%と最も高くなっている。

図 性別、年齢別 「福祉」に関する関心の有無

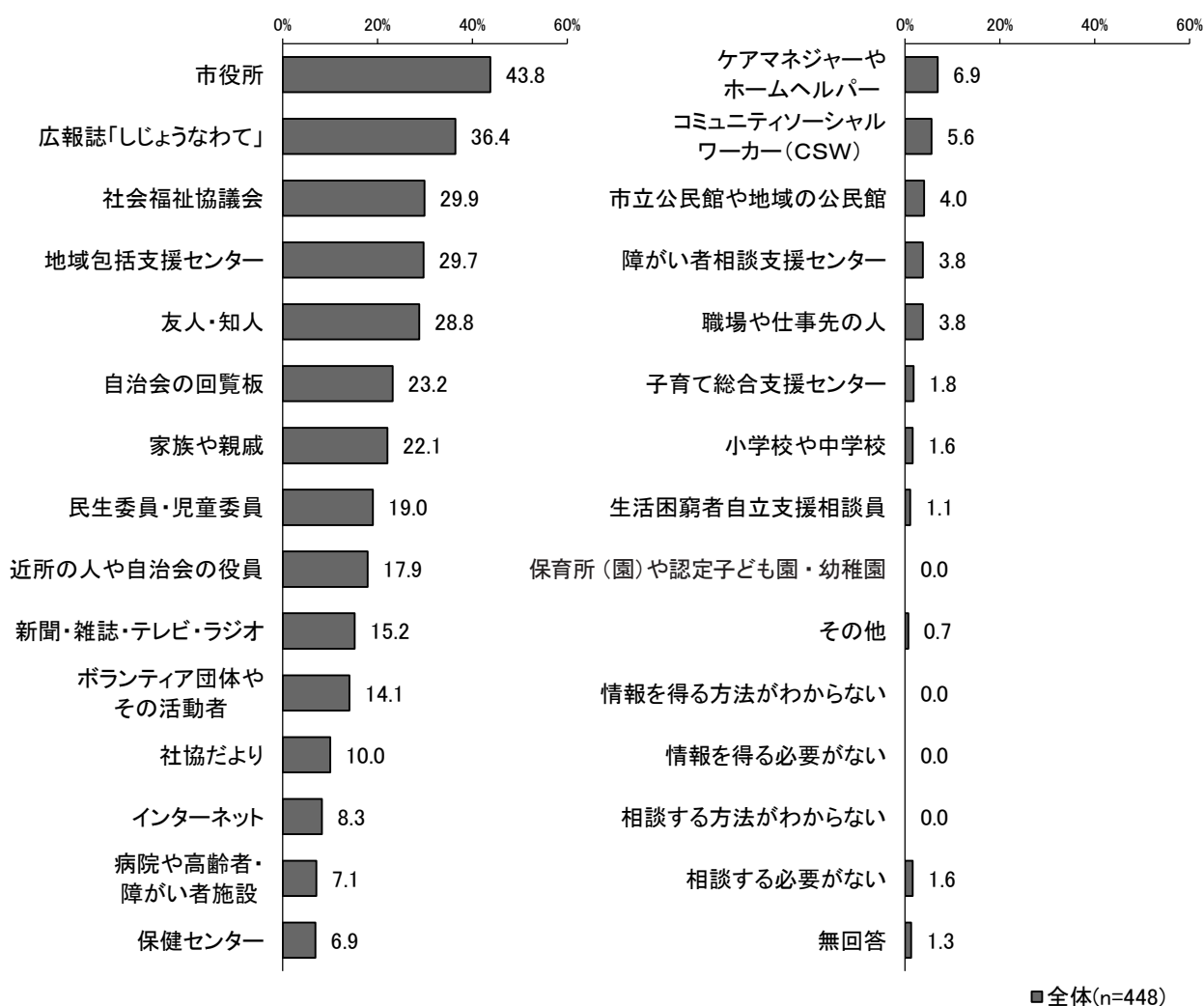


(2)「福祉サービス」に関する情報源や相談相手

(問8) あなたは、現在、「福祉サービス」に関する情報をおもにどこから入手したり、困ったときにどこに相談したりしていますか？(○は5つまで)

「福祉サービス」に関する情報源や相談相手をみると、「市役所」が43.8%で最も高く、次いで「広報誌『しじょうなわて』」が36.4%、「社会福祉協議会」が29.9%、「地域包括支援センター」が29.7%、「友人・知人」が28.8%、「自治会の回覧板」が23.2%、「家族や親戚」が22.1%となっている。

図 「福祉サービス」に関する情報源や相談相手



性別でみると、男性では「市役所」が 57.5%と高くなっており、次いで「社会福祉協議会」が 37.8%と高くなっている。また、「近所の人や自治会の役員」が 24.4%で女性より 8.8 ポイント高くなっている。女性では「広報誌『しじょうなわて』」が 38.7%で最も高く、次いで「市役所」が 38.4%でほぼ同率となっており、「友人・知人」(32.4%)と「地域包括支援センター」(31.7%)も 3 割台と高くなっている。

年齢別でみると、40 歳から 64 歳では「広報誌『しじょうなわて』」が最も高く 44.2%、「インターネット」が 19.5%で他の年齢と比べて高くなっている。65 歳から 80 歳では「市役所」が最も高くなっている。81 歳以上では「家族や親戚」が最も高く 40.5%、「社協だより」が 21.4%で他の年齢と比べて高くなっている。

表 性別、年齢別 「福祉サービス」に関する情報源や相談相手

(%)

		回答者数 (n)	市役所	広報誌「しじょうなわて」	社会福祉協議会	地域包括支援センター	友人・知人	自治会の回覧板	家族や親戚	民生委員・児童委員	近所の人や自治会の役員	新聞・雑誌・テレビ・ラジオ	ボランティア団体やその活動者	社協だより	インターネット	病院や高齢者・障がい者施設	保健センター
全体		448	43.8	36.4	29.9	29.7	28.8	23.2	22.1	19.0	17.9	15.2	14.1	10.0	8.3	7.1	6.9
性別	男性	127	57.5	31.5	37.8	24.4	19.7	26.0	20.5	22.8	24.4	18.1	7.9	15.0	8.7	6.3	7.1
	女性	315	38.4	38.7	26.7	31.7	32.4	22.5	22.9	16.8	15.6	14.0	16.8	8.3	8.3	7.3	6.3
年齢別	40 歳から 64 歳	77	41.6	44.2	16.9	19.5	27.3	26.0	15.6	15.6	19.5	13.0	11.7	5.2	19.5	7.8	7.8
	65 歳から 80 歳	320	45.3	38.1	32.8	32.2	28.8	23.8	20.9	20.0	17.2	15.9	15.0	9.7	6.3	6.3	7.2
	81 歳以上	42	35.7	14.3	31.0	31.0	31.0	14.3	40.5	16.7	16.7	14.3	14.3	21.4	4.8	11.9	2.4

		回答者数 (n)	ケアマネジャーやホームヘルパー	コミュニティソーシャルワーカー (CSW)	市立公民館や地域の公民館	障がい者相談支援センター	職場や仕事先の人	子育て総合支援センター	小学校や中学校	生活困窮者自立支援相談員	保育所(園)や認定こども園・幼稚園	その他	情報を得る方法がわからない	情報を得る必要がない	相談する方法がわからない	相談する必要がない	無回答
全体		448	6.9	5.6	4.0	3.8	3.8	1.8	1.6	1.1	-	0.7	-	-	-	1.6	1.3
性別	男性	127	3.1	4.7	3.9	4.7	2.4	-	0.8	1.6	-	1.6	-	-	-	0.8	1.6
	女性	315	8.3	5.7	4.1	3.5	4.4	2.5	1.6	1.0	-	0.3	-	-	-	1.9	1.3
年齢別	40 歳から 64 歳	77	3.9	2.6	3.9	2.6	10.4	7.8	6.5	-	-	-	-	-	-	5.2	-
	65 歳から 80 歳	320	6.9	5.9	4.4	4.4	2.8	0.3	-	0.9	-	0.9	-	-	-	0.9	1.6
	81 歳以上	42	11.9	4.8	2.4	2.4	-	2.4	-	4.8	-	-	-	-	-	-	2.4

3. 地域活動やボランティア活動について

(3) 地域活動・ボランティア活動の参加状況

(問9) あなたは現在、自治会や子ども会などの地域活動や、その他のボランティア活動に参加していますか？(ひとつだけ○)

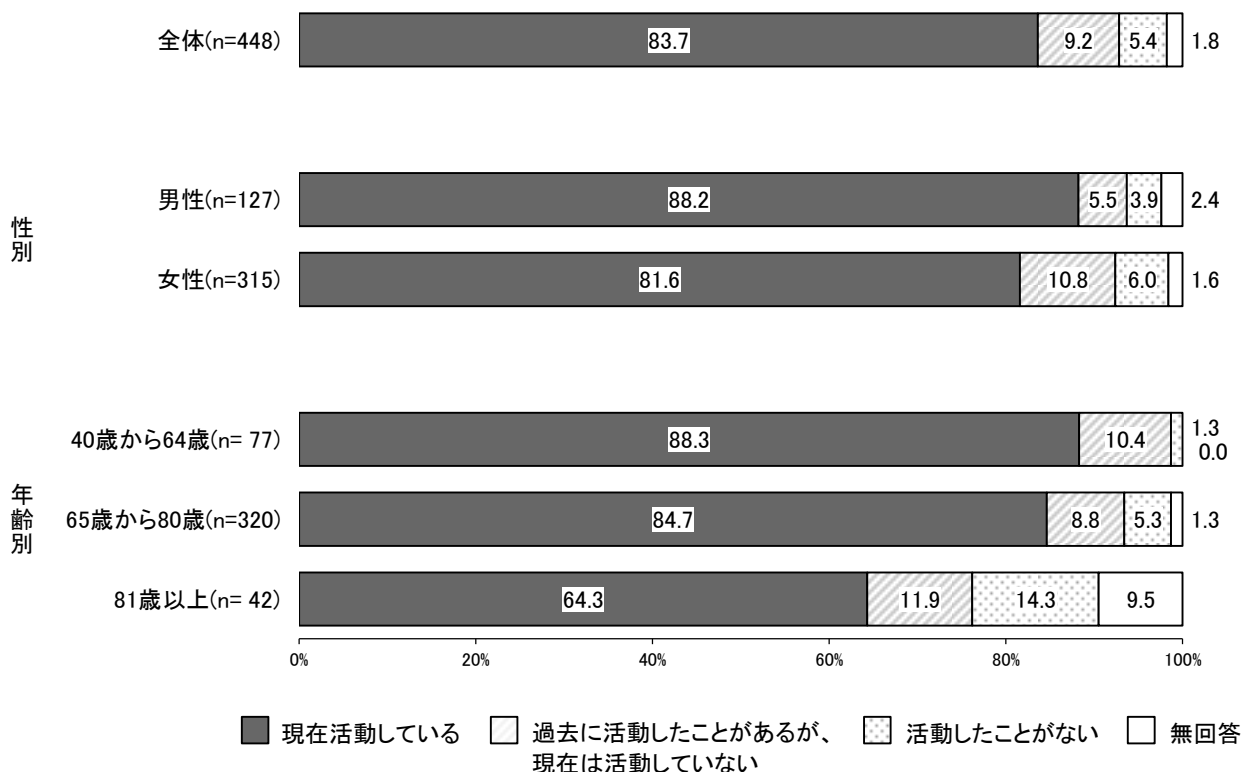
地域活動・ボランティア活動の参加状況をみると、「現在活動している」が83.7%、「過去に活動したことがあるが、現在は活動していない」が9.2%、「活動したことがない」が5.4%となっている。

「現在活動している」と「過去に活動したことがあるが、現在は活動していない」を合わせると、『活動している(したことがある)』人は92.9%で9割を超えている。

性別でみると、男性では「現在活動している」が88.2%、女性では「現在活動している」が81.6%で、男性のほうが女性より6.6ポイント高いが、『活動している(したことがある)』は男性93.7%、女性92.4%となり、大きな差はみられない。

年齢別でみると、81歳以上では「現在活動している」が64.3%と低くなっており、「活動したことがない」が14.3%で他の年齢より高くなっている。40歳から64歳では『活動している(したことがある)』人は98.7%となっており、ほとんどの人がボランティア活動に参加している状況がうかがえる。

図 性別、年齢別 地域活動・ボランティア活動の参加状況



(4) 参加している地域活動・ボランティア活動の内容

(問 10) 問 9 で、「1. 現在活動している」「2. 過去に活動した」と答えた方に質問です。それはどのような活動です（活動でした）か？（あてはまるものすべてに○）

参加している地域活動・ボランティア活動の内容をみると、「自治会の活動」が 63.9%で最も高く、次いで「老人クラブや高齢者の支援活動」が 39.2%、「ひとり暮らしなどの高齢者の援助」が 26.0%、「子ども会・PTA の活動」が 25.5%、「清掃・美化・環境に関する活動」が 24.8%、「地域づくりに関する活動」が 20.2%、「婦人会や女性団体の活動」が 19.0%、「校区の活動」が 18.3%、「スポーツ・文化・レクリエーション・生涯学習に関する活動」が 16.1%となっている。

図 参加している地域活動・ボランティア活動の内容



性別でみると、男女とも「自治会の活動」、「老人クラブや高齢者の支援活動」の順で高くなっており、男性は「自治会の活動」が約 8 割で、女性より 21.7 ポイント高くなっている。次いで、男性では「清掃・美化・環境に関する活動」が 38.7%、「地域づくりに関する活動」が 33.6%となっており、女性では「子ども会・PTA の活動」が 31.3%、「ひとり暮らしなどの高齢者の援助」が 27.5%となっている。

年齢別でみると、40 歳から 64 歳では「子ども会・PTA の活動」が 40.8%と高く、「校区の活動」が 25.0%とやや高くなっている。81 歳以上では「老人クラブや高齢者の支援活動」が 59.4%と高く、「災害ボランティア活動」が 15.6%とやや高くなっている。

表 性別、年齢別 参加している地域活動・ボランティア活動の内容

(%)

		回答者数 (n)	自治会の活動	老人クラブや高齢者の支援活動	ひとり暮らしなどの高齢者の援助	子ども会・PTA の活動	清掃・美化・環境に関する活動	地域づくりに関する活動	婦人会や女性団体の活動	校区の活動	スポーツ・文化・レクリエーション・生涯学習に関する活動
全体		416	63.9	39.2	26.0	25.5	24.8	20.2	19.0	18.3	16.1
性別	男性	119	79.8	42.0	22.7	12.6	38.7	33.6	0.8	13.4	16.0
	女性	291	58.1	38.5	27.5	31.3	18.9	15.1	26.8	20.3	16.2
年齢別	40 歳から 64 歳	76	60.5	18.4	18.4	40.8	13.2	13.2	19.7	25.0	14.5
	65 歳から 80 歳	299	64.9	42.8	30.1	24.1	27.1	21.4	20.4	17.4	16.4
	81 歳以上	32	62.5	59.4	12.5	3.1	28.1	25.0	9.4	12.5	15.6

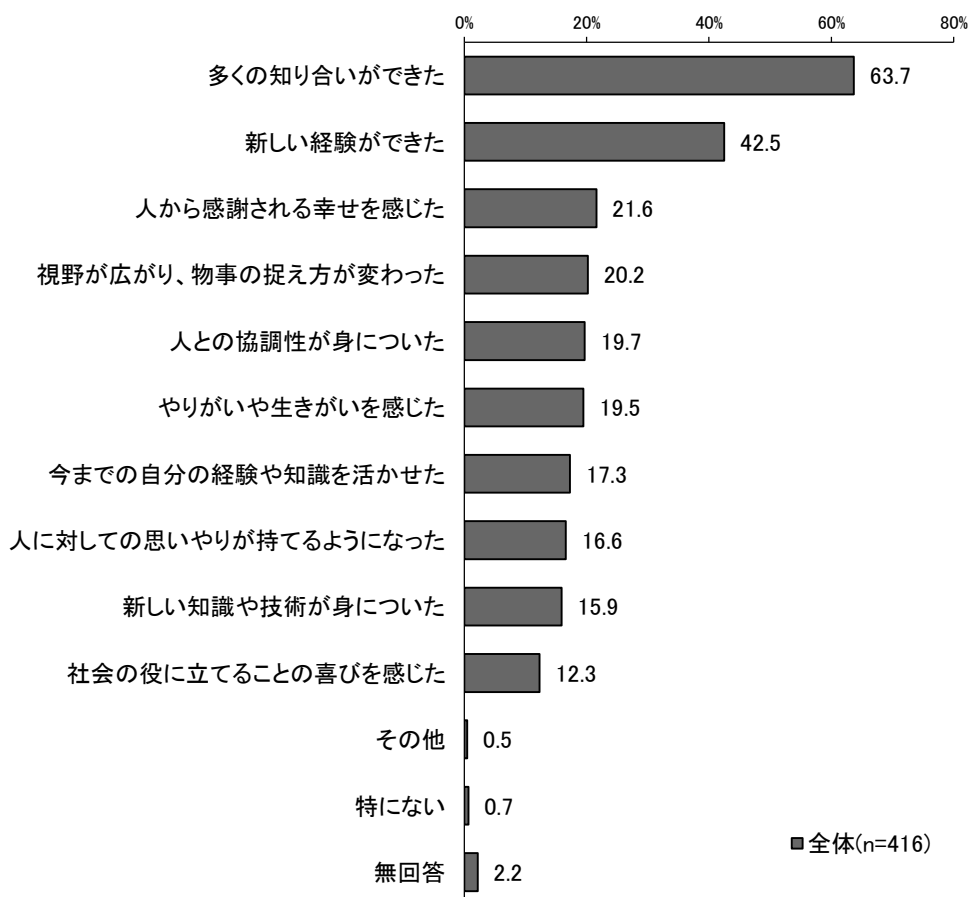
		回答者数 (n)	子育ての支援や子どもの世話	消防団や防犯などの活動	障がいのある人（子ども）の援助	青少年の健全育成に関する活動	災害ボランティア活動	健康づくりや食生活に関する活動	その他	無回答
全体		416	13.7	13.5	11.8	8.2	7.2	7.0	2.4	2.6
性別	男性	119	6.7	28.6	5.0	16.8	14.3	3.4	2.5	3.4
	女性	291	15.8	6.9	14.8	4.8	4.1	8.6	2.1	2.1
年齢別	40 歳から 64 歳	76	14.5	5.3	14.5	7.9	3.9	2.6	3.9	-
	65 歳から 80 歳	299	14.0	15.1	11.7	8.7	7.0	8.4	1.3	3.7
	81 歳以上	32	6.3	12.5	6.3	3.1	15.6	6.3	6.3	-

(5) 地域活動・ボランティア活動に参加して良かった点

(問 11) 問 9 で、「1. 現在活動している」「2. 過去に活動した」と答えた方に質問です。地域活動やボランティア活動に参加して、良かった点はどのようなことですか？(○は3つまで)

地域活動・ボランティア活動に参加して良かった点は、「多くの知り合いができた」が 63.7%で最も高く、次いで「新しい経験ができた」が 42.5%と高くなっている。以下、「人から感謝される幸せを感じた」が 21.6%、「視野が広がり、物事の捉え方が変わった」が 20.2%、「人との協調性が身についた」が 19.7%、「やりがいや生きがいを感じた」が 19.5%、「今までの自分の経験や知識を活かした」が 17.3%、「人に対しての思いやりが持てるようになった」が 16.6%、「新しい知識や技術が身についた」が 15.9%、「社会の役に立てることの喜びを感じた」が 12.3%となっており、多くの人が地域活動・ボランティア活動に参加して良かったと感じている様子がうかがえる。

図 地域活動・ボランティア活動に参加して良かった点



性別でみると、女性では多くの項目で男性より高い傾向となっており、「新しい経験ができた」、「視野が広がり、物事の捉え方が変わった」、「やりがいや生きがいを感じた」は男性より 7～9 ポイント高くなっている。

年齢別でみると、40 歳から 64 歳では「多くの知り合いができた」、「新しい経験ができた」、「新しい知識や技術が身についた」が高くなっている。81 歳以上では「人から感謝される幸せを感じた」と「人に対しての思いやりが持てるようになった」が高くなっており、3 割を超えている。

表 性別、年齢別 地域活動・ボランティア活動に参加して良かった点

(%)

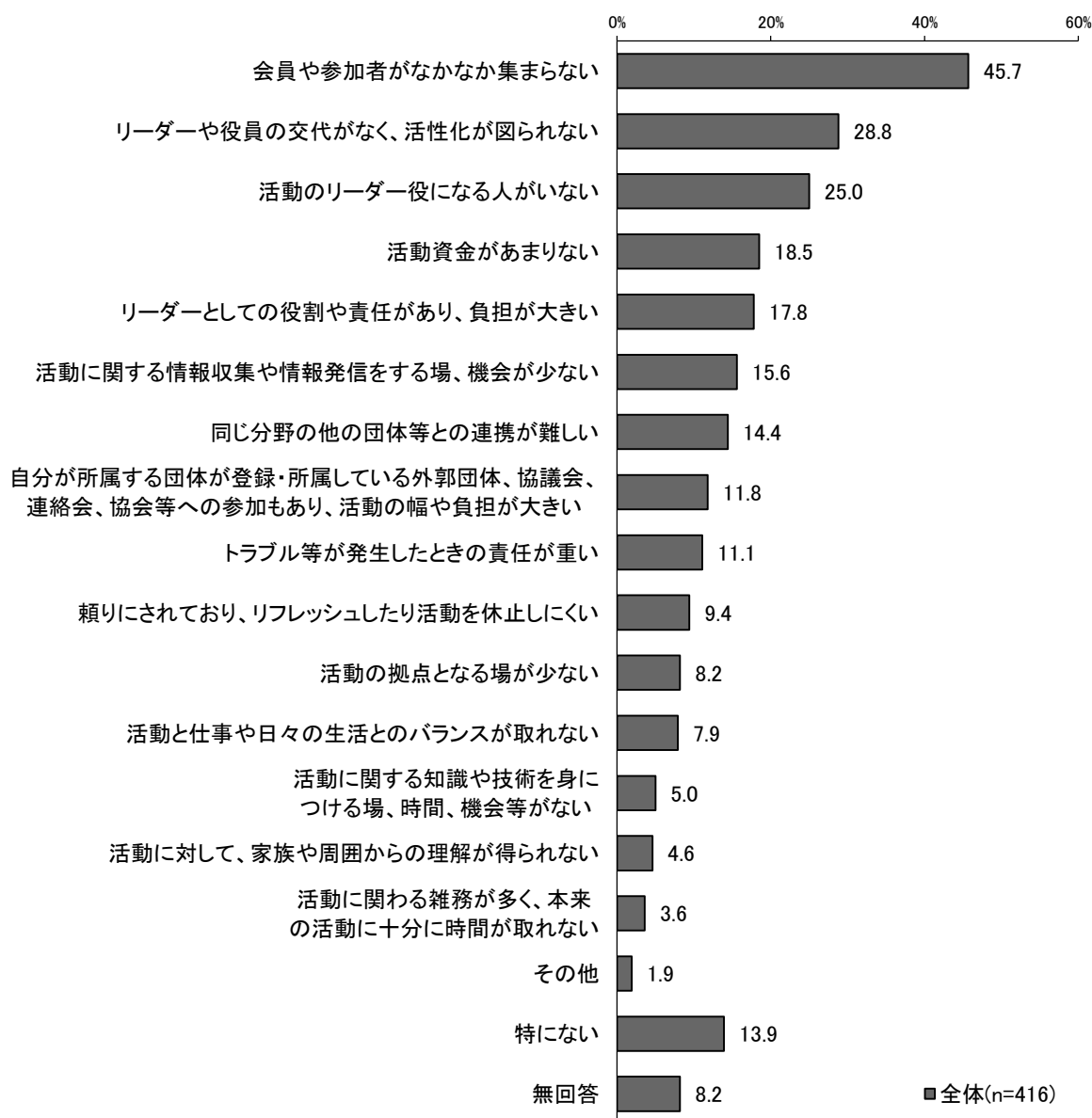
		回答者数 (n)	多くの知り合いができた	新しい経験ができた	人から感謝される幸せを感じた	視野が広がり、物事の捉え方が変わった	人との協調性が身についた	やりがいや生きがいを感じた	今までの自分の経験や知識を活かした	人に対しての思いやりが持てるようになった	新しい知識や技術が身についた	社会の役に立てることの喜びを感じた	その他	特にない	無回答
全体		416	63.7	42.5	21.6	20.2	19.7	19.5	17.3	16.6	15.9	12.3	0.5	0.7	2.2
性別	男性	119	63.0	37.8	21.8	15.1	18.5	12.6	19.3	19.3	14.3	12.6	0.8	1.7	4.2
	女性	291	64.6	45.0	21.0	22.7	19.9	21.6	16.8	15.8	16.8	12.4	0.3	0.3	1.4
年齢別	40 歳から 64 歳	76	72.4	51.3	13.2	25.0	10.5	11.8	10.5	10.5	23.7	2.6	1.3	-	1.3
	65 歳から 80 歳	299	63.2	42.1	22.1	20.1	21.1	21.1	18.1	16.7	14.7	13.7	0.3	0.3	2.7
	81 歳以上	32	53.1	25.0	37.5	6.3	28.1	21.9	21.9	34.4	6.3	18.8	-	6.3	-

(6) よりよい地域活動・ボランティア活動のために、改善が求められていること

(問12) 問9で、「1. 現在活動している」「2. 過去に活動した」と答えた方に質問です。よりよい活動を進めるうえで、改善が求められていること（求められていたこと）はありますか？（〇は5つまで）

よりよい地域活動・ボランティア活動のために、改善が求められていることは、「会員や参加者がなかなか集まらない」が45.7%で最も高く、次いで「リーダーや役員の交代がなく、活性化が図られない」が28.8%、「活動のリーダー役になる人がいない」が25.0%となっている。

図 よりよい地域活動・ボランティア活動のために、改善が求められていること



性別でみると、男性では多くの項目で女性より高くなっており、特に「活動のリーダー役になる人がいない」は37.8%、「リーダーとしての役割や責任があり、負担が大きい」は29.4%と高く、女性より15ポイント以上高くなっている。

年齢別でみると、40歳から64歳では「会員や参加者がなかなか集まらない」が55.3%と最も高くなっている。81歳以上では「リーダーとしての役割や責任があり、負担が大きい」と「頼りにされており、リフレッシュしたり活動を休止しにくい」が高く、それぞれ31.3%、21.9%となっている。

表 性別、年齢別 よりよい地域活動・ボランティア活動のために、改善が求められていること

(%)

		回答者数 (n)	会員や参加者がなかなか集まらない	リーダーや役員の交代がなく、活性化が図られない	活動のリーダー役になる人がいない	活動資金があまりない	リーダーとしての役割や責任があり、負担が大きい	活動に関する情報収集や情報発信をする場、機会が少ない	同じ分野の他の団体等との連携が難しい	自分が所属する団体が登録・所属している外郭団体、協議会、連絡会、協会等への参加もあり、活動の幅や負担が大きい	トラブル等が発生したときの責任が重い
全体		416	45.7	28.8	25.0	18.5	17.8	15.6	14.4	11.8	11.1
性別	男性	119	44.5	37.0	37.8	26.1	29.4	15.1	20.2	17.6	18.5
	女性	291	46.4	25.4	20.3	15.8	13.4	15.8	12.4	8.6	7.9
年齢別	40歳から64歳	76	55.3	22.4	19.7	21.1	18.4	21.1	7.9	7.9	10.5
	65歳から80歳	299	43.8	31.4	26.1	17.1	16.4	15.4	16.4	11.4	10.4
	81歳以上	32	40.6	18.8	25.0	28.1	31.3	9.4	15.6	15.6	15.6

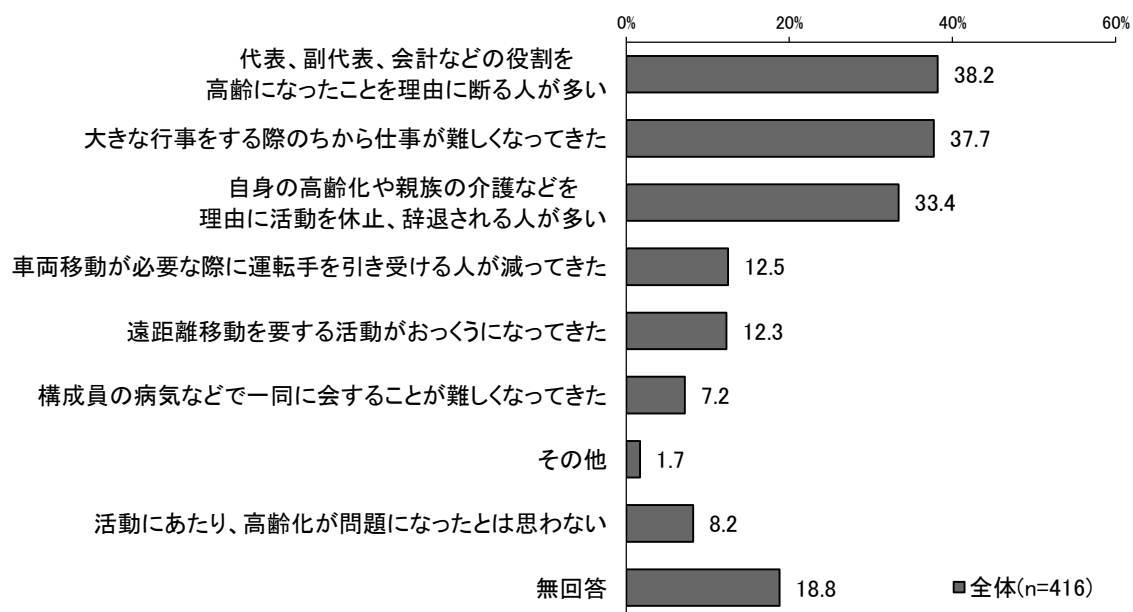
		回答者数 (n)	頼りにされており、リフレッシュしたり活動を休止しにくい	活動の拠点となる場が少ない	活動と仕事や日々の生活とのバランスが取れない	活動に関する知識や技術を身につける場、時間、機会等がない	活動に対して、家族や周囲からの理解が得られない	活動に関わる雑務が多く、本来の活動に十分に時間が取れない	その他	特にない	無回答
全体		416	9.4	8.2	7.9	5.0	4.6	3.6	1.9	13.9	8.2
性別	男性	119	11.8	7.6	10.1	2.5	5.9	5.9	1.7	9.2	5.9
	女性	291	8.2	8.6	6.5	6.2	4.1	2.1	2.1	15.5	9.3
年齢別	40歳から64歳	76	3.9	14.5	15.8	6.6	6.6	-	2.6	10.5	3.9
	65歳から80歳	299	9.0	5.7	6.0	5.0	4.0	3.7	0.7	15.4	8.4
	81歳以上	32	21.9	12.5	3.1	3.1	-	6.3	9.4	9.4	18.8

(7) ボランティア活動における高齢化問題の有無

(問 13) 現在、グループを通じてボランティア活動に参加している方に質問です。所属している団体には、次のような高齢化による問題がありますか。(○は3つまで)

ボランティア活動における高齢化問題の有無をみると、「代表、副代表、会計などの役割を高齢になったことを理由に断る人が多い」が 38.2%で最も高く、僅差で「大きな行事をする際のちから仕事が増え、難しくなってきた」が 37.7%、「自身の高齢化や親族の介護などを理由に活動を休止、辞退される人が多い」が 33.4%となっている。

図 ボランティア活動における高齢化問題の有無



性別でみると、男性では「大きな行事をする際のちから仕事が難しくなってきた」が最も高く 47.1% となっており、次いで「代表、副代表、会計などの役割を高齢になったことを理由に断る人が多い」が 45.4% となっており、いずれも女性より 10 ポイント以上高くなっている。

年齢別でみると、40 歳から 64 歳では「活動にあたり、高齢化が問題になったとは思わない」が 17.1% と高くなっている。81 歳以上ではほとんどの項目で最も高くなっており、「代表、副代表、会計などの役割を高齢になったことを理由に断る人が多い」は 53.1% と 5 割を超えている。

表 性別、年齢別 ボランティア活動における高齢化問題の有無

(%)

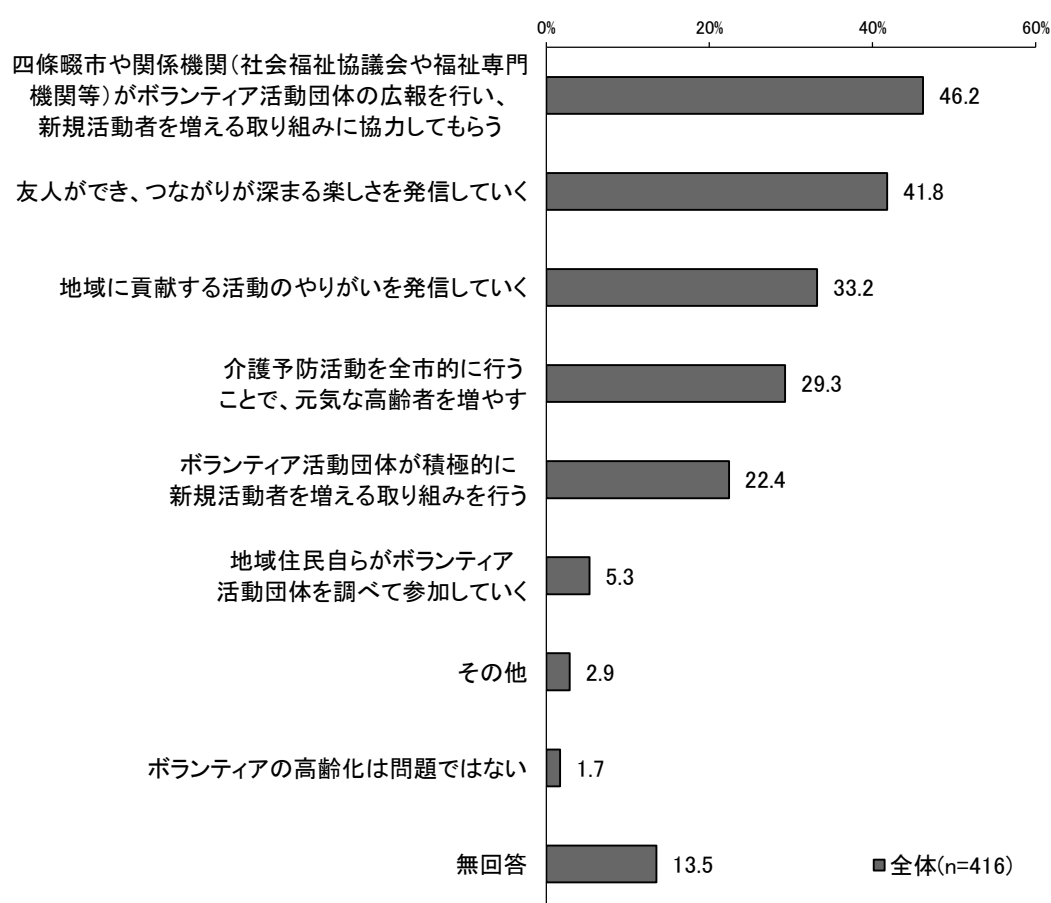
		回答者数 (n)	代表、副代表、会計などの役割を高齢になったことを理由に断る人が多い	大きな行事をする際のちから仕事が難しくなってきた	自身の高齢化や親族の介護などを理由に活動を休止、辞退される人が多い	車両移動が必要な際に運転手を引き受ける人が減ってきた	遠距離移動を要する活動がおっくうになってきた	構成員の病気などで一同に会することが難しくなってきた	その他	活動にあたり、高齢化が問題になったとは思わない	無回答
全体		416	38.2	37.7	33.4	12.5	12.3	7.2	1.7	8.2	18.8
性別	男性	119	45.4	47.1	35.3	12.6	7.6	8.4	-	8.4	15.1
	女性	291	35.4	34.0	32.6	12.4	14.4	6.5	2.4	7.9	20.3
年齢別	40 歳から 64 歳	76	34.2	30.3	27.6	3.9	5.3	6.6	-	17.1	21.1
	65 歳から 80 歳	299	37.5	38.8	34.1	13.4	14.7	6.4	2.0	6.7	18.1
	81 歳以上	32	53.1	46.9	40.6	25.0	9.4	9.4	3.1	3.1	18.8

(8) ボランティア高齢化問題を解決する方法

(問 14) ボランティアの高齢化問題についてお聞きします。どのような方法が解決につながると考えますか。(〇は3つまで)

ボランティア高齢化問題を解決する方法をみると、「四條畷市や関係機関（社会福祉協議会や福祉専門機関等）がボランティア活動団体の広報を行い、新規活動者を増える取り組みに協力してもらう」が46.2%で最も高く、次いで「友人ができ、つながりが深まる楽しさを発信していく」が41.8%、「地域に貢献する活動のやりがいを発信していく」が33.2%、「介護予防活動を全市的に行うことで、元気な高齢者を増やす」が29.3%となっている。

図 ボランティア高齢化問題を解決する方法



性別でみると、男女とも「四條畷市や関係機関（社会福祉協議会や福祉専門機関等）がボランティア活動団体の広報を行い、新規活動者を増える取り組みに協力してもらう」が最も高くなっている。次いで女性は「友人ができ、つながりが深まる楽しさを発信していく」、「介護予防活動を全市的に行うことで、元気な高齢者を増やす」の順でいずれも男性より高くなっており、「介護予防活動を全市的に行うことで、元気な高齢者を増やす」は 15.5 ポイント高くなっている。

年齢別でみると、81 歳以上では「友人ができ、つながりが深まる楽しさを発信していく」が 53.1% と最も高くなっている。65 歳から 80 歳では「四條畷市や関係機関（社会福祉協議会や福祉専門機関等）がボランティア活動団体の広報を行い、新規活動者を増える取り組みに協力してもらう」と「介護予防活動を全市的に行うことで、元気な高齢者を増やす」が他の年齢より高くなっている。

表 性別、年齢別 ボランティア高齢化問題を解決する方法

		回答者数 (n)	四條畷市や関係機関（社会福祉協議会や福祉専門機関等）がボランティア活動団体の広報を行い、新規活動者を増える取り組みに協力してもらう	友人ができ、つながりが深まる楽しさを発信していく	地域に貢献する活動のやりがい発信していく	介護予防活動を全市的に行うことで、元気な高齢者を増やす	ボランティア活動団体が積極的に新規活動者を増える取り組みを行う	地域住民自らがボランティア活動団体を調べて参加していく	その他	ボランティアの高齢化は問題ではない	無回答
全体		416	46.2	41.8	33.2	29.3	22.4	5.3	2.9	1.7	13.5
性別	男性	119	45.4	36.1	36.1	18.5	26.1	6.7	4.2	2.5	15.1
	女性	291	46.0	44.7	32.6	34.0	21.0	4.8	1.7	1.4	13.1
年齢別	40 歳から 64 歳	76	42.1	32.9	30.3	25.0	22.4	6.6	6.6	2.6	11.8
	65 歳から 80 歳	299	47.2	42.8	33.8	32.1	21.7	4.7	2.0	1.3	13.4
	81 歳以上	32	37.5	53.1	31.3	18.8	21.9	6.3	-	3.1	21.9

(%)

4. まわりの支援機関について

(1) 社会福祉協議会の認知状況

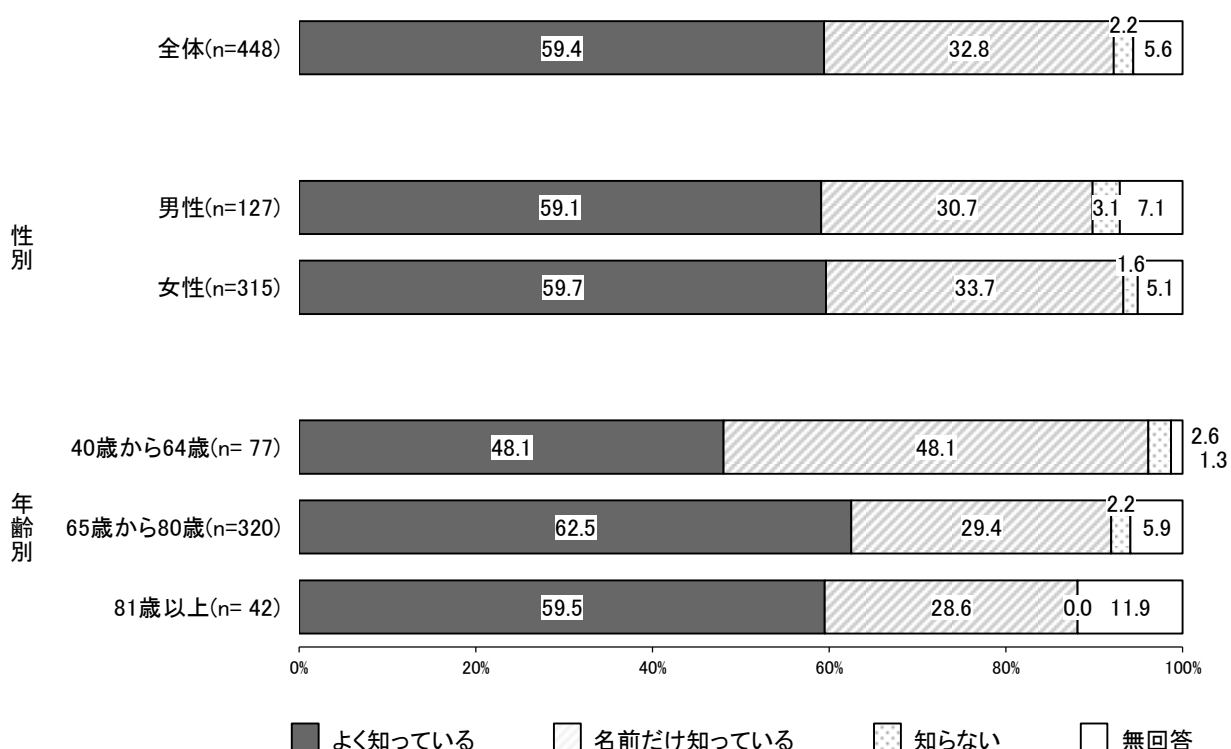
(問 15) あなたは、四條畷市の社会福祉協議会を知っていますか？（ひとつだけ○）

社会福祉協議会の認知状況をみると、「よく知っている」が 59.4%で最も高く、次いで「名前だけ知っている」が 32.8%、「知らない」が 2.2%となっている。『知っている』（「よく知っている」と「名前だけ知っている」の合計）は 92.2%となっている。

性別でみると、男女で「よく知っている」はほぼ同率となっているが、『知っている』は男性が 89.8%、女性が 93.4%で、女性のほうが男性よりやや高くなっている。

年齢別でみると、65 歳から 80 歳では「よく知っている」が 62.5%と最も高くなっている。40 歳から 64 歳では「よく知っている」と「名前だけ知っている」がともに 48.1%となっており、『知っている』が 96.2%と最も高くなっている。

図 性別、年齢別 社会福祉協議会の認知状況

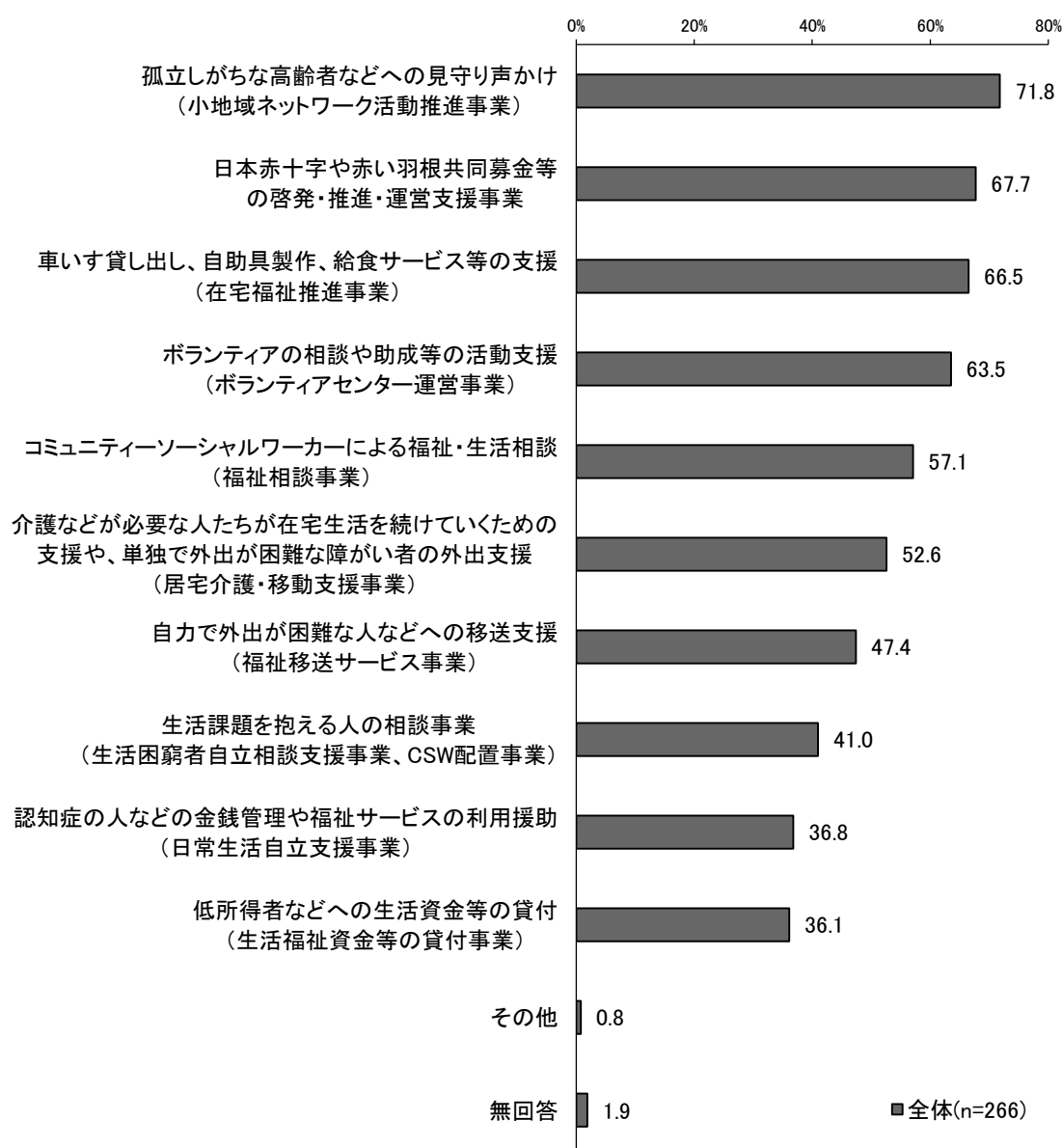


(2) 知っている社会福祉協議会の活動

(問 16) 問 15 で、「1. よく知っている」と答えた方に質問です。あなたが知っている社会福祉協議会の活動はどれですか？（あてはまるものすべてに○）

知っている社会福祉協議会の活動をみると、「孤立しがちな高齢者などへの見守り声かけ（*小地域ネットワーク活動推進事業）」が 71.8%で最も高く、次いで「日本赤十字や赤い羽根共同募金等の啓発・推進・運営支援事業」が 67.7%、「車いす貸し出し、自助具製作、給食サービス等の支援（在宅福祉推進事業）」が 66.5%、「ボランティアの相談や助成等の活動支援（ボランティアセンター運営事業）」が 63.5%となっている。

図 知っている社会福祉協議会の活動



性別でみると、男女とも「孤立しがちな高齢者などへの見守り声かけ（小地域ネットワーク活動推進事業）」が最も高く、以下、男女とも大きな違いはみられないが、男性では「低所得者などへの生活資金等の貸付（生活福祉資金等の貸付事業）」は 41.3%とやや高くなっており、女性より 7.3 ポイント高くなっている。

年齢別でみると、40 歳から 64 歳と 65 歳から 80 歳では「孤立しがちな高齢者などへの見守り声かけ（小地域ネットワーク活動推進事業）」が最も高く、81 歳以上では「ボランティアの相談や助成等の活動支援（ボランティアセンター運営事業）」が最も高くなっている。65 歳から 80 歳では「車いす貸し出し、自助具製作、給食サービス等の支援（在宅福祉推進事業）」が 72.0%と他の年齢と比べて高くなっている。

表 性別、年齢別 知っている社会福祉協議会の活動

(%)

		回答者数 (n)	孤立しがちな高齢者などへの見守り声かけ (小地域ネットワーク活動推進事業)	日本赤十字や赤い羽根共同募金等の啓発・推進・運営支援事業	車いす貸し出し、自助具製作、給食サービス等の支援 (在宅福祉推進事業)	ボランティアの相談や助成等の活動支援 (ボランティアセンター運営事業)	コミュニティソーシャルワーカーによる福祉・生活相談 (福祉相談事業)	介護などが必要な人たちが在宅生活を続けていくための支援や、単独で外出が困難な障がい者の外出支援 (居宅介護・移動支援事業)	自力で外出が困難な人などへの移送支援 (福祉移送サービス事業)	生活課題を抱える人の相談事業 (生活困窮者自立相談支援事業、コミュニティソーシャルワーカー配置事業)	認知症の人などの金銭管理や福祉サービスの利用援助 (日常生活自立支援事業)	低所得者などへの生活資金等の貸付 (生活福祉資金等の貸付事業)	その他	無回答
全体		266	71.8	67.7	66.5	63.5	57.1	52.6	47.4	41.0	36.8	36.1	0.8	1.9
性別	男性	75	73.3	68.0	64.0	60.0	56.0	53.3	46.7	45.3	33.3	41.3	1.3	1.3
	女性	188	71.8	68.1	67.6	64.9	57.4	53.2	47.9	39.4	38.3	34.0	0.5	2.1
年齢別	40歳から64歳	37	70.3	59.5	45.9	59.5	48.6	48.6	40.5	37.8	29.7	21.6	2.7	-
	65歳から80歳	200	73.5	71.5	72.0	63.5	61.0	54.5	50.5	43.5	38.5	40.5	0.5	1.5
	81歳以上	25	60.0	48.0	60.0	64.0	36.0	48.0	40.0	28.0	36.0	28.0	-	8.0

(3) 民生委員・児童委員の認知状況

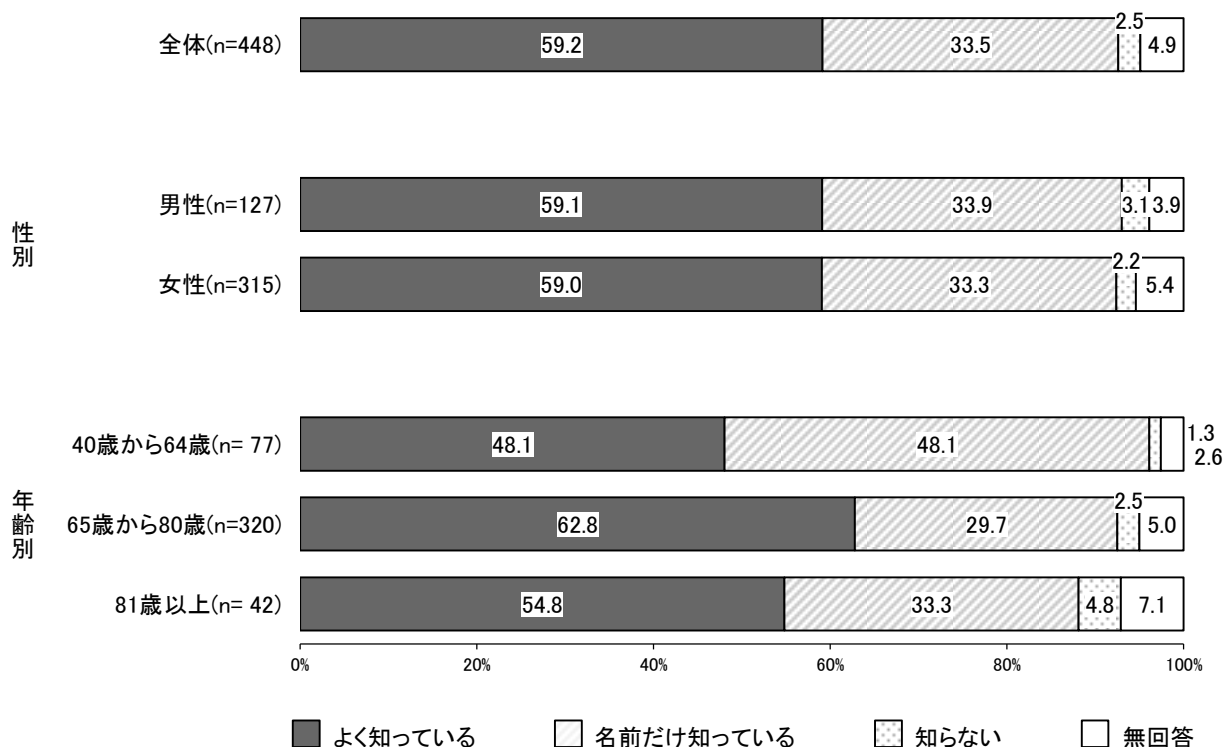
(問 17) あなたは、民生委員・児童委員を知っていますか？(ひとつだけ○)

民生委員・児童委員の認知状況をみると、「よく知っている」が 59.2%で最も高く、次いで「名前だけ知っている」が 33.5%、「知らない」が 2.5%となっている。『知っている』(「よく知っている」と「名前だけ知っている」の合計)は 92.7%となっている。

性別でみると、全体とほぼ同率となっており、男女で大きな違いはみられない。

年齢別でみると、65歳から80歳では「よく知っている」が62.8%と最も高くなっている。40歳から64歳では「よく知っている」と「名前だけ知っている」がともに48.1%となっており、『知っている』が96.2%と最も高くなっている。

図 性別、年齢別 民生委員・児童委員の認知状況

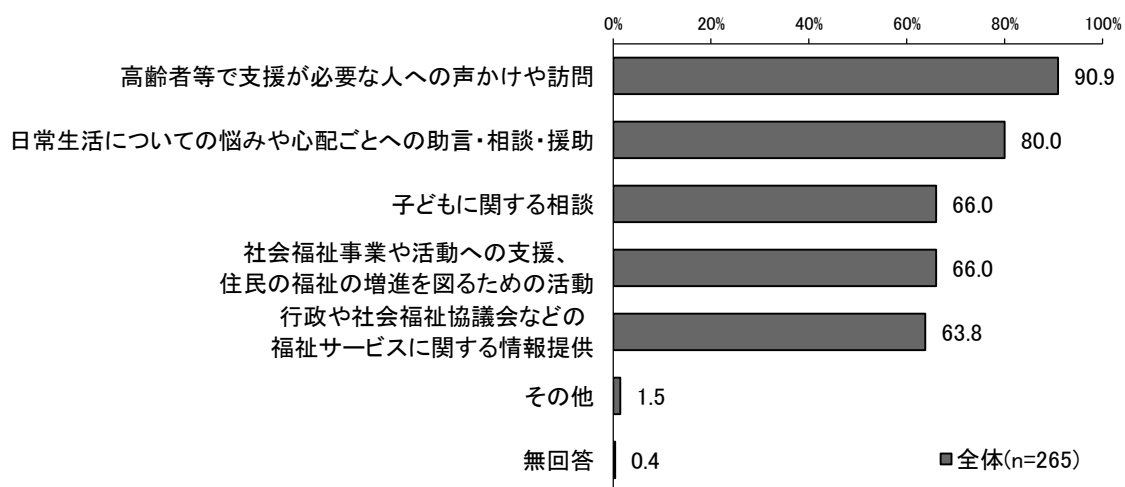


(4) 知っている民生委員・児童委員の活動

(問 18) 問 17 で、「1. よく知っている」と答えた方に質問です。あなたが知っている民生委員・児童委員の活動はどれですか？（あてはまるものすべてに○）

知っている民生委員・児童委員の活動をみると、「高齢者等で支援が必要な人への声かけや訪問」が 90.9%で最も高く、次いで「日常生活についての悩みや心配ごとへの助言・相談・援助」が 80.0%、「子どもに関する相談」と「社会福祉事業や活動への支援、住民の福祉の増進を図るための活動」がともに 66.0%、「行政や社会福祉協議会などの福祉サービスに関する情報提供」が 63.8%となっている。

図 知っている民生委員・児童委員の活動



性別でみると、多くの項目で女性が高くなっており、「高齢者等で支援が必要な人への声かけや訪問」は 10.6 ポイント、「子どもに関する相談」は 12.6 ポイント、女性が男性より高くなっている。

年齢別でみると、40 歳から 64 歳では「子どもに関する相談」が 75.7%と高くなっている。81 歳以上では「高齢者等で支援が必要な人への声かけや訪問」と「日常生活についての悩みや心配ごとへの助言・相談・援助」がともに 82.6%と高くなっており、「子どもに関する相談」が 39.1%と低くなっている。

表 性別、年齢別 知っている民生委員・児童委員の活動

(%)

		回答者数 (n)	高齢者等で支援が必要な人への声かけや訪問	日常生活についての悩みや心配ごとへの助言・相談・援助	子どもに関する相談	社会福祉事業や活動への支援、住民の福祉の増進を図るための活動	行政や社会福祉協議会などの福祉サービスに関する情報提供	その他	無回答
全体		265	90.9	80.0	66.0	66.0	63.8	1.5	0.4
性別	男性	75	84.0	78.7	57.3	68.0	60.0	2.7	-
	女性	186	94.6	81.7	69.9	65.1	65.6	1.1	0.5
年齢別	40 歳から 64 歳	37	86.5	67.6	75.7	70.3	67.6	-	-
	65 歳から 80 歳	201	93.0	82.1	66.7	66.7	63.7	1.5	0.5
	81 歳以上	23	82.6	82.6	39.1	56.5	60.9	-	-

（５）地区福祉委員会の認知状況

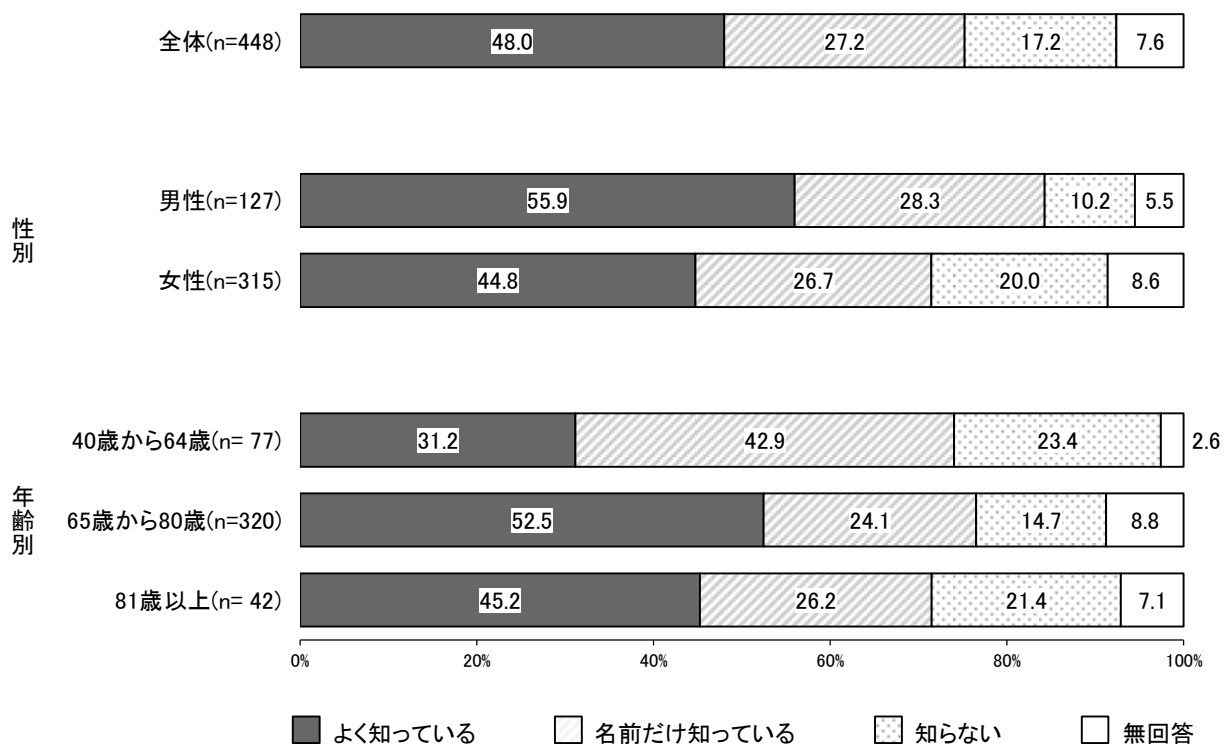
（問 19）あなたは、地区福祉委員会を知っていますか？（ひとつだけ○）

地区福祉委員会の認知状況をみると、「よく知っている」が 48.0%で最も高く、次いで「名前だけ知っている」が 27.2%、「知らない」が 17.2%となっている。『知っている』（「よく知っている」と「名前だけ知っている」の合計）は 75.2%となっている。

性別でみると、男性では「よく知っている」が 55.9%と高くなっており、『知っている』は 84.2%、女性では「よく知っている」が 44.8%で、『知っている』は 71.5%となっており、男性のほうが認知度が高くなっている。女性は「知らない」が 20.0%と 2 割を占めている。

年齢別でみると、65 歳から 80 歳では「よく知っている」が 52.5%と最も高くなっている。40 歳から 64 歳と 81 歳以上では「知らない」がともに 2 割を超えている。

図 性別、年齢別 地区福祉委員会の認知状況

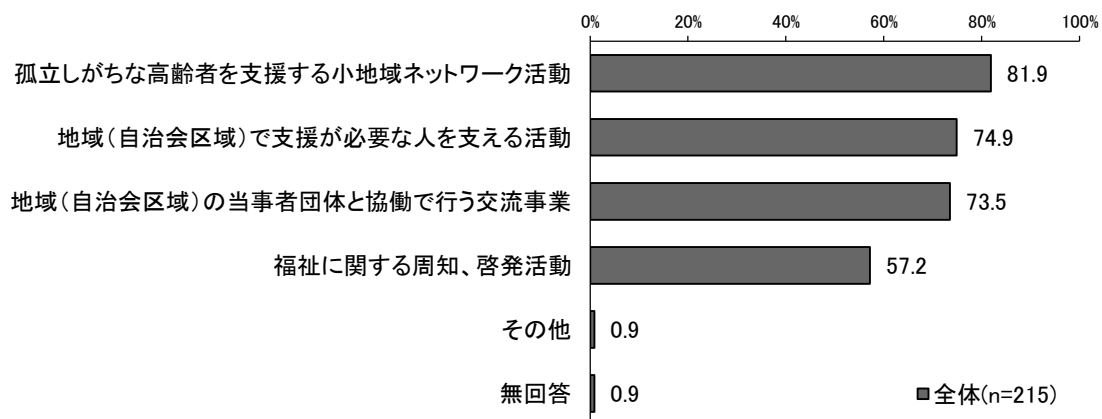


（６）知っている地区福祉委員会の活動

（問 20）問 19 で、「１．よく知っている」と答えた方に質問です。あなたが知っている地区福祉委員会の活動はどれですか？（あてはまるものすべてに○）

知っている地区福祉委員会の活動をみると、「孤立しがちな高齢者を支援する小地域ネットワーク活動」が 81.9%で最も高く、次いで「地域（自治会区域）で支援が必要な人を支える活動」が 74.9%、「地域（自治会区域）の当事者団体と協働で行う交流事業」が 73.5%、「福祉に関する周知、啓発活動」が 57.2%となっている。

図 知っている地区福祉委員会の活動



性別でみると、男女とも「孤立しがちな高齢者を支援する小地域ネットワーク活動」（男性 78.9%、女性 83.0%）が最も高く、男性は「地域（自治会区域）で支援が必要な人を支える活動」も同率で最も高くなっている。

年齢別でみると、40 歳から 64 歳では「地域（自治会区域）で支援が必要な人を支える活動」が 54.2%と低くなっており、「福祉に関する周知、啓発活動」が 66.7%と高くなっている。

表 性別、年齢別 知っている民生委員・児童委員の活動

(%)

		回答者数 (n)	孤立しがちな高齢者を支援する小地域ネットワーク活動	地域（自治会区域）で支援が必要な人を支える活動	地域（自治会区域）の当事者団体と協働で行う交流事業	福祉に関する周知、啓発活動	その他	無回答
全体		215	81.9	74.9	73.5	57.2	0.9	0.9
性別	男性	71	78.9	78.9	71.8	60.6	1.4	-
	女性	141	83.0	73.8	75.2	55.3	-	1.4
年齢別	40 歳から 64 歳	24	75.0	54.2	75.0	66.7	-	-
	65 歳から 80 歳	168	82.1	77.4	73.8	55.4	0.6	1.2
	81 歳以上	19	84.2	78.9	73.7	52.6	-	-

(7) コミュニティソーシャルワーカー（CSW）の認知状況

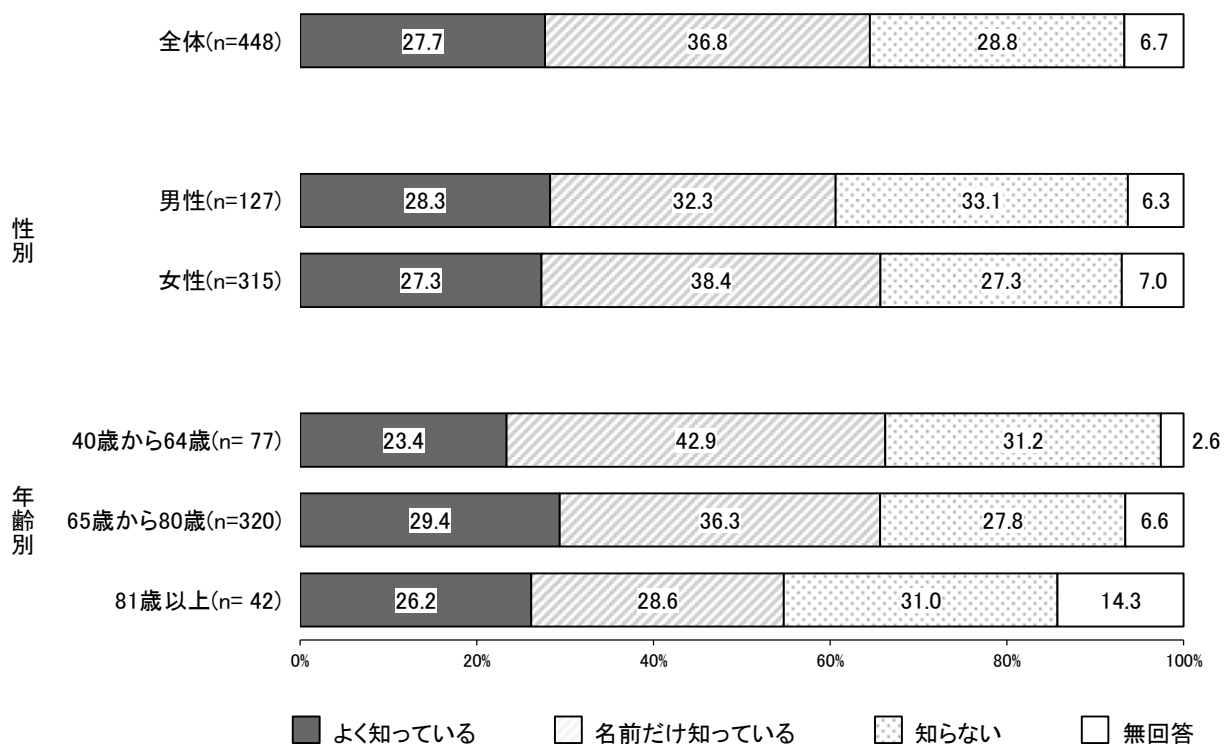
(問 21) あなたは、コミュニティソーシャルワーカー（CSW）を知っていますか？（ひとつだけ○）

コミュニティソーシャルワーカー（CSW）の認知状況をみると、「名前だけ知っている」が 36.8%で最も高く、次いで「知らない」が 28.8%、「よく知っている」が 27.7%となっている。『知っている』（「よく知っている」と「名前だけ知っている」の合計）は 64.5%となっている。

性別でみると、男性では『知っている』が 60.6%、女性では『知っている』が 65.7%となっており、女性のほうが認知度がやや高くなっている。男性では「知らない」が 33.1%と 3 割を超えている。

年齢別でみると、81 歳以上では『知っている』が 54.8%と他の年齢と比べて低くなっている。40 歳から 64 歳と 81 歳以上では「知らない」がともに約 3 割とやや高くなっている。

図 性別、年齢別 コミュニティソーシャルワーカー（CSW）の認知状況

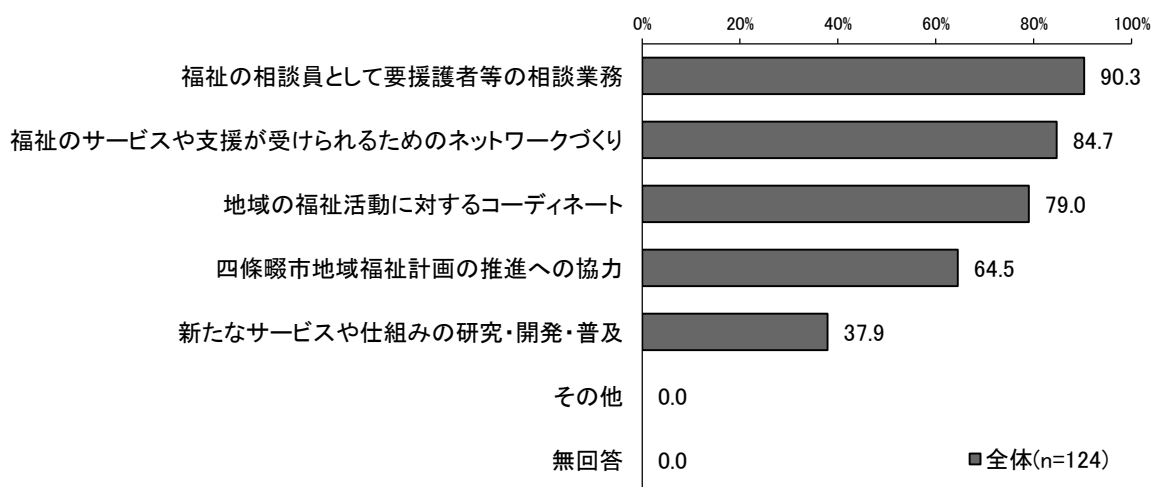


(8) 知っている CSW の活動

(問 22) 問 21 で、「1. よく知っている」と答えた方に質問です。あなたが知っている CSW の活動はどれですか？（あてはまるものすべてに○）

知っている CSW の活動をみると、「福祉の相談員として要援護者等の相談業務」が 90.3%で最も高く、次いで「福祉のサービスや支援が受けられるためのネットワークづくり」が 84.7%、「地域の福祉活動に対するコーディネート」が 79.0%、「四條畷市地域福祉計画の推進への協力」が 64.5%、「新たなサービスや仕組みの研究・開発・普及」が 37.9%となっている。

図 知っているCSWの活動



性別でみると、女性では「福祉の相談員として要援護者等の相談業務」と「福祉のサービスや支援が受けられるためのネットワークづくり」がともに男性より約 10 ポイント高くなっている。男性では「四條畷市地域福祉計画の推進への協力」が女性より約 10 ポイント高くなっている。

年齢別でみると、81 歳以上では「福祉の相談員として要援護者等の相談業務」、「福祉のサービスや支援が受けられるためのネットワークづくり」、「地域の福祉活動に対するコーディネート」がいずれも 90.9%と最も高くなっている。40 歳から 64 歳では「新たなサービスや仕組みの研究・開発・普及」が 50.0%と高くなっている。

表 性別、年齢別 知っているCSWの活動

(%)

		回答者数 (n)	福祉の相談員として要援護者等の相談業務	福祉のサービスや支援が受けられるためのネットワークづくり	地域の福祉活動に対するコーディネート	四條畷市地域福祉計画の推進への協力	新たなサービスや仕組みの研究・開発・普及	その他	無回答
全体		124	90.3	84.7	79.0	64.5	37.9	-	-
性別	男性	36	83.3	77.8	77.8	72.2	33.3	-	-
	女性	86	93.0	87.2	80.2	61.6	39.5	-	-
年齢別	40 歳から 64 歳	18	88.9	83.3	77.8	55.6	50.0	-	-
	65 歳から 80 歳	94	90.4	84.0	77.7	64.9	36.2	-	-
	81 歳以上	11	90.9	90.9	90.9	72.7	27.3	-	-

(9) 権利擁護の認知状況

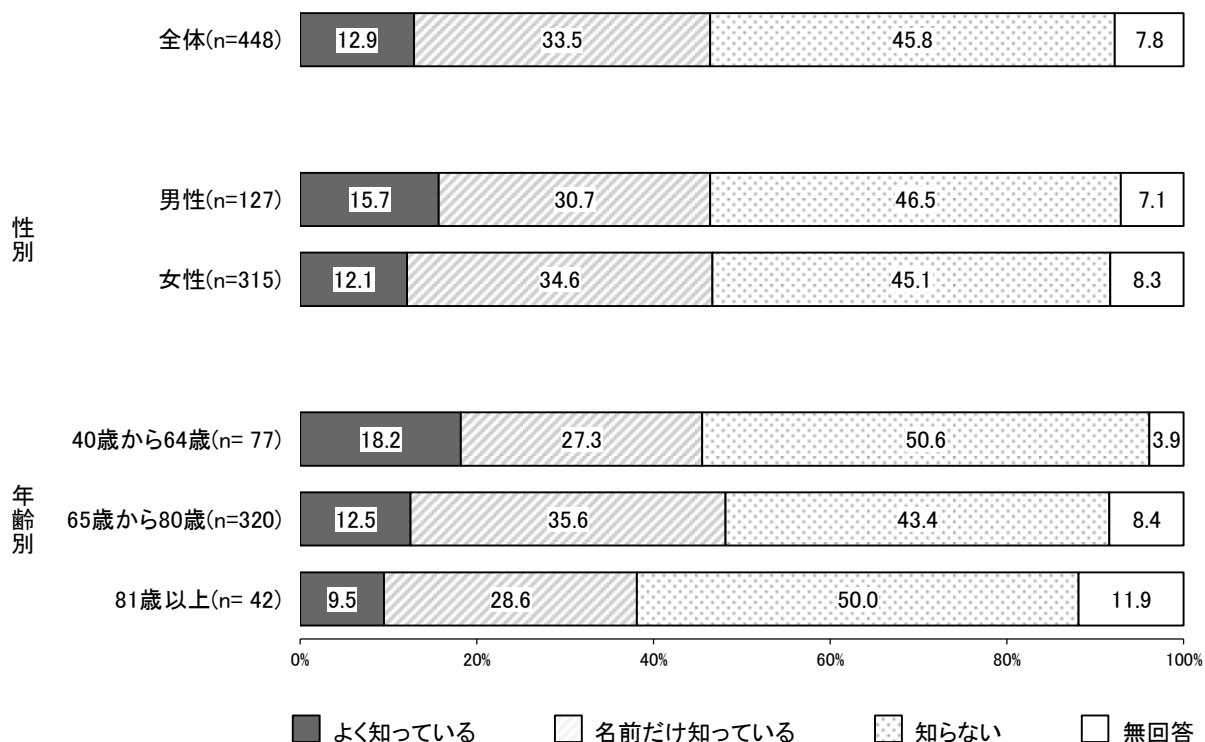
(問 23) あなたは、権利擁護について何か知っていますか？（ひとつだけ○）

権利擁護の認知状況をみると、「知らない」が 45.8%で最も高く、次いで「名前だけ知っている」が 33.5%、「よく知っている」が 12.9%となっている。『知っている』（「よく知っている」と「名前だけ知っている」の合計）は 46.4%となっている。

性別でみると、男性では『知っている』が 46.4%、女性では『知っている』が 46.7%とほぼ同率となっているが、「よく知っている」は男性が 15.7%、女性が 12.1%で、男性のほうがやや高くなっている。

年齢別でみると、40 歳から 64 歳では「よく知っている」が 18.2%と他の年齢と比べて高くなっている。40 歳から 64 歳と 81 歳以上では「知らない」が 5 割台と高くなっている。

図 性別、年齢別 権利擁護の認知状況

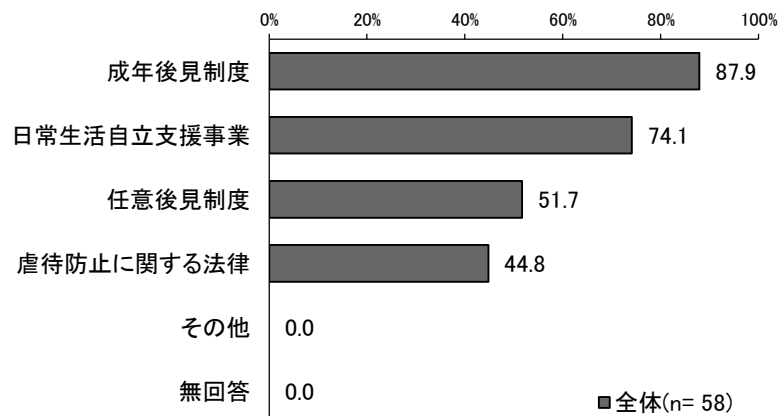


(10) 知っている権利擁護

(問 24) 問 23 で、「1. よく知っている」と答えた方に質問です。あなたが知っている権利擁護はどれですか？（あてはまるものすべてに○）

知っている権利擁護をみると、「成年後見制度」が 87.9%で最も高く、次いで「日常生活自立支援事業」が 74.1%、「任意後見制度」が 51.7%、「虐待防止に関する法律」が 44.8%となっている。

図 知っている権利擁護



性別でみると、男女とも「成年後見制度」が最も高くなっているが、女性 92.1%、男性 80.0%で、女性が 12.1 ポイント高くなっている。また、男性では「任意後見制度」は 35.0%にとどまり、女性より 25.5 ポイント低くなっている。

年齢別でみると、40 歳から 64 歳では「成年後見制度」が 92.9%と最も高くなっている。81 歳以上では「日常生活自立支援事業」は 100%となっているが、「虐待防止に関する法律」は 25.0%と最も低くなっている。

表 性別、年齢別 知っている権利擁護

(%)

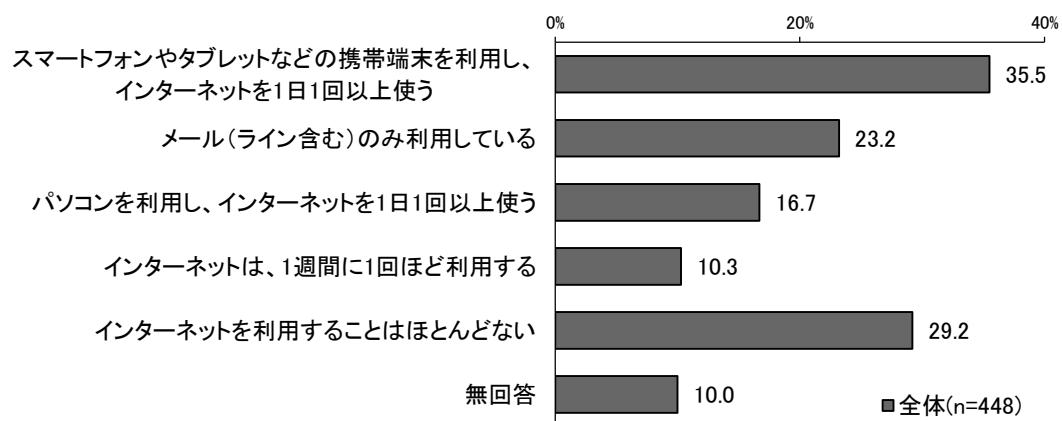
		回答者数 (n)	成年後見制度	日常生活自立支援事業	任意後見制度	虐待防止に関する法律	その他	無回答
全体		58	87.9	74.1	51.7	44.8	-	-
性別	男性	20	80.0	70.0	35.0	50.0	-	-
	女性	38	92.1	76.3	60.5	42.1	-	-
年齢別	40 歳から 64 歳	14	92.9	78.6	50.0	50.0	-	-
	65 歳から 80 歳	40	87.5	70.0	52.5	45.0	-	-
	81 歳以上	4	75.0	100.0	50.0	25.0	-	-

(11) インターネットの利用状況

(問 25) インターネットについてどの程度使用していますか。(あてはまるものすべてに○)

インターネットの利用状況を見ると、「スマートフォンやタブレットなどの携帯端末を利用し、インターネットを1日1回以上使う」が35.5%で最も高く、次いで「メール(ライン含む)のみ利用している」が23.2%となっている。「インターネットを利用することはほとんどない」が29.2%と約3割を占めている。

図 インターネットの利用状況



性別でみると、男女とも「スマートフォンやタブレットなどの携帯端末を利用し、インターネットを1日1回以上使う」がほぼ同率で最も高くなっている。次いで、男性では「パソコンを利用し、インターネットを1日1回以上使う」が32.3%と高く、女性と比べて21.8ポイント高くなっている。

年齢別でみると、40歳から64歳では「スマートフォンやタブレットなどの携帯端末を利用し、インターネットを1日1回以上使う」が72.7%と最も高く、7割以上を占めている。81歳以上では「インターネットを利用することはほとんどない」が最も高く45.2%となっている。

表 性別、年齢別 インターネットの利用状況

(%)

		回答者数 (n)	スマートフォンやタブレットなどの携帯端末を利用し、インターネットを1日1回以上使う	メール（ライン含む）のみ利用している	パソコンを利用し、インターネットを1日1回以上使う	インターネットは、1週間に1回ほど利用する	インターネットを利用することはほとんどない	無回答
全体		448	35.5	23.2	16.7	10.3	29.2	10.0
性別	男性	127	36.2	18.9	32.3	11.8	26.8	10.2
	女性	315	34.9	25.1	10.5	9.5	30.5	9.8
年齢別	40歳から64歳	77	72.7	20.8	20.8	6.5	6.5	2.6
	65歳から80歳	320	28.8	24.7	15.6	11.6	33.1	10.0
	81歳以上	42	11.9	14.3	16.7	4.8	45.2	26.2

しじょうなわて し
四條畷市

ち い き ふ く し か つ どう け い か く あ ん けー と ち ょ う さ ひ ょ う
地域福祉活動計画アンケート調査票

れい わ がんねん がつ
令和元年8月

しじょうなわてししゃかいふくしきょうぎかい
四條畷市社会福祉協議会

だい き しじょうなわてしち い き ふ く し かつ どう けい かく 第4期四條畷市地域福祉活動計画

ちやうさ アンケート調査

アンケート調査に^{ちやうさ}ご協力^{きやうりよく}いただくみなさまへ

ひごろから、^{ちいきふくしかつどう}地域福祉活動に^{りかい}ご理解と^{きやうりよく}ご協力をいただきありがとうございます。

^{しじょうなわてし}四條畷市社会福祉協議会では、「^{だい}第4期^{きしじょうなわてし}四條畷市^{ちいきふくしかつどうけい}地域福祉活動計画」を^{さくてい}策定するにあたり、
^{しみん}市民のみなさまや^{しな}市内で^{かつどう}活動されているみなさまから、^{ちいきふくし}地域福祉に関する^{いけん}ご意見をお聴きし、^{けいかく}計画づくりに^{はんえい}反映させていきたく^{かんが}と考えております。

^{いそが}お忙しいところ^{まこと}誠に^{きやうしゆく}恐縮ですが、^{しゆし}趣旨をご理解^{りかい}いただき、みなさまの^{いけん}ご意見をお聴か^きせくださいますよう、よろしく^{ねが}お願い^{もう}申し上げます。

目 的 ^{ちいき}地域における福祉活動の^{ふくしかつどう}現状及び^{げんじょうおよ}課題、福祉に関する^{かだい}ニーズ等の^{ふくし}調査を^{かん}行い、
^{ちいきふくし}地域福祉のあり方を^{かた}考え、^{かんが}今後の^{こんご}取り組みの^と参考^くにする。

実施団体 ^{しゃかいふくしほうじんしじょうなわてし}社会福祉法人四條畷市社会福祉協議会

対 象 ^{しじょうなわてし}四條畷市に^{ざいじゆう}在住・^{ざいきん}在勤・^{ざいがく}在学している人、^{ひと}四條畷市で^{しじょうなわてし}活動^{かつどう}を行う人^{おこな}ひと

期 間 ^{れい}令和元年8月2日^が(金)^{きん}から^が9月30日^{にち}(月)^{げつ}まで

方 法 アンケート用紙に^{ようし}記入^{きにゆう}したあと、^{へんしんようふうとう}返信用封筒に入れ、^い切手^{きって}を貼らずに^は郵送^{ゆうそう}してください。
^{しじょうなわてし}四條畷市社会福祉協議会^{しじょうなわてし}事務所^{むしよ}まで^{じさん}ご持参^{けっこう}いただいても結構です。

取 り 扱 い この^{ちやうさけっか}調査結果は、^{どうけいてき}すべて統計的に^{しより}処理され、^{こべつ}個別の内容が^{ないよう}公表^{こうひよう}されることはありません。

(^{ちやうさ}調査に関するお問い合わせ) ^{しゃかいふくしほうじんしじょうなわてし}社会福祉法人四條畷市社会福祉協議会

^{ゆうびんばんごう}郵便番号575-0043 ^{しじょうなわてし}四條畷市^た北出町^{ばん}3番1号^{ごう}

^{でんわ}電話 072-878-1210 FAX 072-878-6888

◆ あなたご自身についておたずねします。 ◆

(ア) あなたの性別は？

1. 男性 2. 女性

(イ) あなたの年齢は、何歳ですか？

1. 19歳まで 2. 20歳から39歳
3. 40歳から64歳 4. 65歳から80歳
5. 81歳以上

(ウ) あなたのおもな職業は何ですか？

1. 会社員、団体職員 2. 公務員 3. 自営業（農業を除く）
4. 農業等 5. 学生 6. 家事専業
7. パート・アルバイト 8. 無職 9. その他（ ）

(エ) あなたの家族構成は、どのようになっていますか？

1. ひとり暮らし（単身） 2. 夫婦のみ 3. 二世帯世帯（親と子）
4. 三世帯世帯（親と子と孫） 5. その他（ ）

(オ) あなたは、現在どちらにお住まいですか？

1. 四條畷市内
居住地区：1. 国道163号線より北側（田原地域除く）
2. 国道163号線より南側（田原地域除く）
3. 田原地域
居住年数：1. 3年未満 2. 3年～5年未満
3. 5年～10年未満 4. 10年～15年未満
5. 15年～20年未満 6. 20年以上
2. 四條畷市以外（市・町・村）

きにゆう ねが
ご記入にあたってのお願い

- ◎ 次ページの、問1から問25までの質問にお答えください。
◎ 回答はあてはまる番号を、指示の数だけ○で囲んでください。
◎ 返信用の封筒に入れて投函する場合は、切手を貼ったり、差出人の名前を書く必要はありません。

1. 地域での生活や関わりについておたずねします。

(問1) あなたは、ふだんご近所とどの程度のつきあいがありますか？（ひとつだけ○）

1. 困っているとき（病気、悩み、事故など）に相談をしたり、助け合ったりするなど、親しくしているお宅がある
2. たまに立ち話を程度
3. 会えばあいさつはするが、それ以上の話はしない
4. ほとんどつきあいがいい

(問2) あなたは、毎日の暮らしの中で、どのような困りごとがありますか？

(○は3つまで)

1. 力仕事や高い所の仕事ができない
2. 家事労働（ごみ出し・炊事・洗濯など）がきつい
3. 庭の手入れや・畑仕事ができない
4. 買い物や通院などの外出が不便
5. 話し相手、遊び相手が少ない
6. 生涯学習などの場所や機会の不足
7. 運動する場所や機会の不足
8. 機械類・電化製品の使い方や修理方法がわからない
9. その他（ ）
10. 特にないい

(問3) あなたの身近なところで、困りごとを抱えている人たちから助けの求めがあったとき、あなた自身はどう対応したいと思いますか？（ひとつだけ○）

1. 積極的に対応したい
2. できるだけ対応したい
3. 対応したいができれば避けたい
4. 関わりたくないのになにもしない
5. その他（ ）

(問4) あなたは地域で人と人の関わりについて、どのように考えていますか？
(ひとつだけ○)

1. 心から打ち解けあえる関係を築きたい
2. 身近な人とはつきあいを大切にしたい
3. 地域を良くする活動をみんなで協力し合って行いたい
4. 他人の力はできるだけ借りたくない
5. 地域の人や近隣の人たちとはできるだけ関わりをもちたくない
6. その他 ()

(問5) あなたは困りごとがあったときに、誰に相談しますか？ (○は3つまで)

- | | |
|----------------------------|----------------|
| 1. 家族・親戚 | 2. 友人・知人 |
| 3. 近所の人 | 4. 自治会の役員 |
| 5. 保育所(園)や認定子ども園・幼稚園・学校の先生 | |
| 6. 職場や仕事先の人 | |
| 7. 医療・福祉関係の人 | 8. 行政の職員 |
| 9. その他 () | 10. 相談できる人がいない |

(問6) あなたやご家族に助けが必要になったとき、どのような支援をしてほしいと思いますか？
(○は3つまで)

- | | |
|----------------------|------------------|
| 1. 声かけや見守り、緊急連絡先への連絡 | 2. 日常的な話し相手 |
| 3. 心配ごとなどの相談相手 | 4. 新聞や郵便物の整理 |
| 5. ごみ出しや布団干しなど家事の手伝い | 6. 買い物や外出の手伝い |
| 7. 庭の水やりや草取り | 8. ペットの世話や自宅前の清掃 |
| 9. 子どもの短時間の預り | 10. 急病になったときの看病 |
| 11. 介護を必要とする人の短時間の預り | 12. 災害時の手助け |
| 13. その他 () | |
| 14. 特になし | |

2. 「福祉」や「福祉サービス」についておたずねします。

(問7) あなたは「福祉」に関心をお持ちですか？ (ひとつだけ○)

- | | |
|-------------|--------------|
| 1. とても関心がある | 2. やや関心がある |
| 3. あまり関心がない | 4. まったく関心がない |

(問8) あなたは、現在、「福祉サービス」に関する情報をおもにどこから入手したり、

困ったときにどこに相談したりしていますか？ (○は5つまで)

- | | |
|---------------------------|--------------------|
| 1. 市役所 | 2. 社会福祉協議会 |
| 3. 子育て総合支援センター | 4. 地域包括支援センター |
| 5. 障がい者相談支援センター | 6. 保健センター |
| 7. 保育所(園)・認定子ども園や幼稚園 | 8. 小学校や中学校 |
| 9. 病院や高齢者・障がい者施設 | 10. ボランティア団体やその活動者 |
| 11. 市立公民館や地域の公民館 | 12. 民生委員・児童委員 |
| 13. *コミュニティソーシャルワーカー(CSW) | 14. 生活困窮者自立支援相談員 |
| 15. ケアマネジャーやホームヘルパー | 16. 家族や親戚 |
| 17. 友人・知人 | 18. 近所の人や自治会の役員 |
| 19. 職場や仕事先の人 | 20. 広報誌「しじょうなわて」 |
| 21. 社協だより | 22. 自治会の回覧板 |
| 23. 新聞・雑誌・テレビ・ラジオ | 24. インターネット |
| 25. その他 () | |
| 26. 情報を得る方法がわからない | 27. 情報を得る必要がない |
| 28. 相談する方法がわからない | 29. 相談する必要がない |

【 *コミュニティソーシャルワーカーとは？ 】

高齢、障がい、児童など、対象を限定せずに地域において支援を要する人を把握し、支援に
 応じるために地域に出向いて相談に応じ、地域の資源やさまざまなサービスを活用して生活
 するうえでの悩みや困りごとの解決を手助けをしたり、地域のネットワーク化を推進する福祉
 の総合相談員です。

3. 地域活動やボランティア活動についておたずねします。

(問9) あなたは現在、自治会や子ども会などの地域活動や、その他のボランティア活動に参加していますか？ (ひとつだけ○)

- | | | |
|-----------------------------|---|-----------|
| 1. 現在活動している | } | 問10～問14 へ |
| 2. 過去に活動したことがあるが、現在は活動していない | | |
| 3. 活動したことがない | ➡ | 問15 へ |

(問10) 問9で、「1. 現在活動している」「2. 過去に活動した」と答えた方に質問です。それはどのような活動です (活動でした) か？ (あてはまるものすべてに○)

1. 校区の活動
2. 自治会の活動
3. 子ども会・PTAの活動
4. 老人クラブや高齢者の支援活動
5. 婦人会や女性団体の活動
6. 消防団や防犯などの活動
7. ひとり暮らしなどの高齢者の援助
8. 子育ての支援や子どもの世話
9. 障がいのある人 (子ども) の援助
10. 健康づくりや食生活に関する活動
11. スポーツ・文化・レクリエーション・生涯学習に関する活動
12. 地域づくりに関する活動
13. 青少年の健全育成に関する活動
14. 清掃・美化・環境に関する活動
15. 災害ボランティア活動
16. その他 ()

問11 へ

(問11) 問9で、「1. 現在活動している」「2. 過去に活動した」と答えた方に質問
です。地域活動やボランティア活動に参加して、良かった点はどのようなこと
ですか？ (○は3つまで)

1. 新しい経験ができた
2. 人から感謝される幸せを感じた
3. やりがいや生きがいを感じた
4. 人との協調性が身についた
5. 新しい知識や技術が身についた
6. 多くの知り合いができた
7. 社会の役に立てることの喜びを感じた
8. 視野が広がり、物事の捉え方が変わった
9. 今までの自分の経験や知識を活かした
10. 人に対しての思いやりが持てるようになった
11. その他 ()
12. 特にない

↓
問12へ

(問12) 問9で、「1. 現在活動している」「2. 過去に活動した」と答えた方に質問です。よりよい活動を進めるうえで、改善が求められていること（求められていたこと）はありますか？（○は5つまで）

1. 活動に関する情報収集や情報発信をする場、機会が少ない
2. 活動の拠点となる場が少ない
3. 同じ分野の他の団体などとの連携が難しい
4. 会員や参加者がなかなか集まらない
5. 活動のリーダー役になる人がいない
6. トラブルなどが発生したときの責任が重い
7. 活動資金があまりない
8. リーダーや役員の交代がなく、活性化が図られない
9. 活動に関する知識や技術を身につける場、時間、機会等がない
10. 活動に関わる雑務が多く、本来の活動に十分に時間が取れない
11. リーダーとしての役割や責任があり、負担が大きい
12. 自分が所属する団体が登録・所属している外郭団体、協議会、連絡会、協会等への参加もあり、活動の幅や負担が大きい
13. 活動に対して、家族や周囲からの理解が得られない
14. 活動と仕事や日々の生活とのバランスが取れない
15. 頼りにされており、リフレッシュしたり活動を休止しにくい
16. その他（ ）
17. 特にない

問13へ

(問13) 現在、グループを通じてボランティア活動に参加している方に質問です。所属している団体には、次のような高齢化による問題がありますか。

(○は3つまで)

1. 大きな行事をする際のちから仕事^{しごと}が難しくなってきた
2. 代表、副代表、会計などの役割を高齢になったことを理由に断^{ことわ}る人が多い
3. 自身の高齢化や親族の介護などを理由に活動を休止、辞退される人が多い
4. 車両移動が必要な際に運転手を引き受ける人が減ってきた
5. 遠距離移動を要する活動がおっくうになってきた
6. 構成員の病気などで一同に会することが難しくなってきた
7. その他 ()
8. 活動にあたり、高齢化が問題になったとは思わない

(問14) ボランティアの高齢化問題についてお聞きします。どのような方法が解決につながると考えますか。

(○は3つまで)

1. 四條畷市や関係機関（社会福祉協議会や福祉専門機関等）がボランティア活動団体の広報を行い、新規活動者を増える取り組みに協力してもらう
2. ボランティア活動団体が積極的に新規活動者を増える取り組みを行う
3. 地域住民自らがボランティア活動団体を調べて参加していく
4. 介護予防活動を全市的に行うことで、元気な高齢者を増やす
5. 地域に貢献する活動のやりがいを発信していく
6. 友人ができ、つながりが深まる楽しさを発信していく
7. その他 ()
8. ボランティアの高齢化は問題ではない

4. あなたのまわりの支援機関についておたずねします。

(問15) あなたは、四條畷市の*社会福祉協議会を知っていますか？(ひとつだけ○)

1. よく知っている 2. 名前だけ知っている 3. 知らない

(問16) 問15で、「1. よく知っている」と答えた方に質問です。

問17へ

あなたが知っている社会福祉協議会の活動はどれですか？

(あてはまるものすべてに○)

1. ボランティアの相談や助成等の活動支援 (ボランティアセンター運営事業)
2. 孤立しがちな高齢者などへの見守り声かけ(*小地域ネットワーク活動推進事業)
3. 車いす貸し出し、自助具製作、給食サービス等の支援 (在宅福祉推進事業)
4. 介護などが必要な人たちが在宅生活を続けていくための支援や、単独で外出が困難な障がい者の外出支援 (居宅介護・移動支援事業)
5. 認知症の人などの金銭管理や福祉サービスの利用援助 (日常生活自立支援事業)
6. 低所得者などへの生活資金等の貸付 (生活福祉資金等の貸付事業)
7. 自力で外出が困難な人などへの移送支援 (福祉移送サービス事業)
8. コミュニティーソーシャルワーカーによる福祉・生活相談 (福祉相談事業)
9. 日本赤十字や赤い羽根共同募金等の啓発・推進・運営支援事業
10. 生活課題を抱える人の相談事業 (生活困窮者自立相談支援事業、CSW配置事業)
11. その他 ()

【 *社会福祉協議会とは？ 】

地域における住民組織や社会福祉施設、福祉団体、行政などにより構成され、住民主体の理念に基づき地域の福祉課題の解決に取り組み、だれもが安心して暮らすことのできる地域福祉の実現を目指し、住民の福祉活動の組織化、社会福祉を目的とする事業の連絡調整及び事業の企画、実施など、地域福祉の推進を行う民間組織です。

【 *小地域ネットワークとは？ 】

日常生活を送るうえで援助を必要とする高齢者や障がい者、子育て世帯などの人に対し、安心して生活が送れるよう地域住民が参加、協力して見守りなどの援助を行ったり、地域の公民館などで相談やさまざまな事業や行事などで居場所づくりを行います。

(問17) あなたは、*民生委員・児童委員を知っていますか？ (ひとつだけ○)

1. よく知っている 2. 名前だけ知っている 3. 知らない

(問18) 問17で、「1. よく知っている」と答えた方に質問です。

問19へ

あなたが知っている民生委員・児童委員の活動はどれですか？

(あてはまるものすべてに○)

1. 日常生活についての悩みや心配ごとへの助言・相談・援助
2. 行政や社会福祉協議会などの福祉サービスに関する情報提供
3. 高齢者等で支援が必要な人への声かけや訪問
4. 子どもに関する相談
5. 社会福祉事業や活動への支援、住民の福祉の増進を図るための活動
6. その他 ()

【 *民生委員・児童委員とは？ 】

民生委員は、厚生労働大臣から委嘱された非常勤特別職の地方公務員で、それぞれの地域で常に住民の立場に立って相談に応じ、必要な援助を行い社会福祉の増進に努める方々で、児童委員を兼ねています。児童委員は、地域の子どもたちが元気に安心して暮らせるように、子どもたちを見守り、子育ての不安や妊娠中の心配ごとなどの相談・支援等を行います。

また、一部の児童委員は、児童に関することを専門的に担当する、「主任児童委員」の指名を受けています。

(問19) あなたは、*地区福祉委員会を知っていますか？ (ひとつだけ○)

1. よく知っている 2. 名前だけ知っている 3. 知らない

問20へ

問21へ

(問20) 問19で、「1. よく知っている」と答えた方に質問です。

あなたが知っている地区福祉委員会の活動はどれですか？

(あてはまるものすべてに○)

1. 孤立しがちな高齢者を支援する小地域ネットワーク活動
2. 福祉に関する周知、啓発活動
3. 地域（自治会区域）の当事者団体と協働で行う交流事業
4. 地域（自治会区域）で支援が必要な人を支える活動
5. その他（ ）

【 *地区福祉委員会とは？ 】

住みよいまちづくりを進めることを目的とし、そこに住むすべての住民が安心して暮らしていけるよう、住民が主体となって取り組むための推進役です。四條畷市では、おおむね自治会単位で結成されています。

(問21) あなたは、コミュニティソーシャルワーカー（CSW）を知っていますか？

(ひとつだけ○)

1. よく知っている
2. 名前だけ知っている
3. 知らない

(問22) 問21で、「1. よく知っている」と答えた方に質問です。

問23へ

あなたが知っているCSWの活動はどれですか？

(あてはまるものすべてに○)

1. 福祉の相談員として要援護者等の相談業務
2. 福祉のサービスや支援が受けられるためのネットワークづくり
3. 地域の福祉活動に対するコーディネート
4. 四條畷市地域福祉計画の推進への協力
5. 新たなサービスや仕組みの研究・開発・普及
6. その他（ ）

しじょうなわてし ち い き ふ く し かつどうけいかくさくていいいんかいめい ぼ
四條畷市地域福祉活動計画策定委員会名簿

	い いん めい 委 員 名	く ぶん 区 分
1	◎小 寺 鐵 也	がくしきけいけん ゆう いいん 学識経験を有する委員
2	こ ばやし ゆ み こ 小 林 由美子	ち く ふ く し い いん かい ぞく いいん 地区福祉委員会に属する委員
3	まつ おか とし お 松 岡 俊 生	ち く ふ く し い いん かい ぞく いいん 地区福祉委員会に属する委員
4	さわ だ けい じ 澤 田 敬 二	ち く ふ く し い いん かい ぞく いいん 地区福祉委員会に属する委員
5	なか むら ま ち こ 中 村 眞知子	みんせい いいん じ どう い いん き よう ぎ かい ぞく いいん 民生委員児童委員協議会に属する委員
6	い もり き み こ 井 森 キミ子	みんせい いいん じ どう い いん き よう ぎ かい ぞく いいん 民生委員児童委員協議会に属する委員
7	ない どう ひ さ し 内 藤 壽	みんせい いいん じ どう い いん き よう ぎ かい ぞく いいん 民生委員児童委員協議会に属する委員
8	やま もと けい い ち ろ う 山 本 啓一郎	ぼ ら ん て い あ れ ん ら く かい ぞく いいん ボランティア連絡会に属する委員
9	しお の た か こ 塩 野 孝 子	ろうじん く ら ぶ れ ん ぐ かい ぞく いいん 老人クラブ連合会に属する委員
10	しの だ み の る 篠 田 實	しんたいし ゃうがいしやふくしかい ぞく いいん 身体障害者福祉会に属する委員
11	え ばら よ し こ 榎 原 芳 子	じんけんきようかい ぞく いいん 人権協会に属する委員
12	で き た よ う こ 出来田 容 子	ち い き こ う け ん い いん かい ぞく いいん こ う れ い ぶん や 地域貢献委員会に属する委員（高齢分野）
13	かわ ぎ し よ し や す 川 岸 祥 泰	ち い き こ う け ん い いん かい ぞく いいん し ゃ う がい ぶん や 地域貢献委員会に属する委員（障がい分野）
14	なか やま わ た る 中 山 航	ち い き こ う け ん い いん かい ぞく いいん こ ど も ぶん や 地域貢献委員会に属する委員（子ども分野）
15	わ だ ゆ き ひ ろ 和 田 行 弘	じ し ゅ ぼう さい ね と わ ー く かい ぞく いいん 自主防災ネットワーク会に属する委員
16	◎あさ い し げ る 浅 井 茂	しゃかいふくしきようぎかい ぞく いいん 社会福祉協議会に属する委員
17	ほり うち い さ む 堀 内 勇	しゃかいふくしきようぎかい ぞく いいん 社会福祉協議会に属する委員
18	なか に し の り こ 中 西 典 子	かんけいぎやうせいき かん ぞく いいん こ ど も せい さ く か 関係行政機関に属する委員（子ども政策課）
19	すが い ま さ か ず 菅 井 雅 一	かんけいぎやうせいき かん ぞく いいん ふ く し せい さ く か 関係行政機関に属する委員（福祉政策課）
20	きた むら ひ ろ ゆ き 北 村 弘 行	かんけいぎやうせいき かん ぞく いいん こ う れ い ふ く し か 関係行政機関に属する委員（高齢福祉課）
21	てら もと あ つ こ 寺 本 敦 子	かんけいぎやうせいき かん ぞく いいん し ゃ う がい ふ く し か 関係行政機関に属する委員（障がい福祉課）

じゅんぶどう けいしやうりやく
※順不同・敬称略

いいんちやう ふくいんちやう
◎は委員長・○は副委員長

四條畷市地域福祉活動計画策定委員会設置要綱

（目的・設置）

第1条 地域住民や社会福祉に関する活動を行う者等が相互に協力して、四條畷市の地域福祉を推進することを目的とする四條畷市地域福祉活動計画（以下、「活動計画」という。）を策定するため四條畷市地域福祉活動計画策定委員会（以下、「委員会」という。）を設置する。

（任務）

第2条 委員会は、必要な調査や研究等を行い、活動計画を策定する。

（委員の構成）

第3条 委員会は、21人以内で組織する。

2 委員は、次の各号に掲げる者の中から会長が委嘱する。

- （1）学識経験を有する者
- （2）地区福祉委員会に属する者
- （3）四條畷市民生委員児童委員協議会に属する者
- （4）四條畷市ボランティア連絡会に属する者
- （5）四條畷市老人クラブ連合会に属する者
- （6）四條畷市身体障害者福祉会に属する者
- （7）四條畷市人権協会に属する者
- （8）四條畷市地域貢献委員会に属する者
- （9）四條畷市自主防災組織ネットワーク会に属する者
- （10）四條畷市社会福祉協議会に属する者
- （11）関係行政機関に属する者

（任期）

第4条 委員の任期は、委嘱の日から令和2年3月31日までとする。

2 委嘱の日は、最初に開催される委員会の日とする。

（委員長及び副委員長）

第5条 委員会に委員長1名及び副委員長1名を置く。委員長及び副委員長は、委員の互選によって選出する。

2 委員長は、委員会を代表し、会務を統括する。副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があったときは、その職務を代行する。

（会議）

第6条 会議は、委員長が招集し、会議の議長となる。

2 委員会は、委員の半数以上が出席しなければ会議を開くことができない。

（意見の聴取）

第7条 委員会が必要と認めるときは、委員以外の者に出席を求め、その意見もしくは説明を聞き、資料の提出を求めることができる。

（事務局）

第8条 委員会の事務局は、四條畷市社会福祉協議会事務局内に置く。

（その他）

第9条 この要綱に定めない事項については、委員会で協議し決定する。

附 則

この要綱は、令和元年5月7日から施行する。

計画の策定経過

日 程	事 項	内 容（案 件）
令和元年 8 月 2 日	第 1 回四條畷市 地域福祉活動計 画策定委員会	・開会 ・委嘱状の交付 ・「地域共生社会の実現と社会福祉協議会」の講義 種智院大学 小寺鐵也教授 （１）会議の公開・非公開について （２）委員長・副委員長の選任について （３）第 3 期四條畷市地域福祉活動計画の 進捗状況について （４）第 4 期四條畷市地域福祉活動計画の 計画年数について （５）第 4 期四條畷市地域福祉活動計画の 理念について （６）第 4 期四條畷市地域福祉活動計画の 意見聴取方法について （７）今後のスケジュールについて （８）その他 （委員 19 名が出席）
令和元年 8 月 2 日～9 月 30 日	アンケート調査	四條畷市に在住・在勤・在学している人、四條畷市 で活動している人（752 名に送付、448 名が回 答）
令和元年 11 月 14 日	ワークショップ	美田町地区福祉委員会ワークショップ（9 名が出席）
令和元年 11 月 18 日	ワークショップ	地区福祉委員会ワークショップ（34 名が出席）
令和元年 12 月 24 日	第 2 回四條畷市 地域福祉活動計 画策定委員会	（１）アンケートの結果について （２）ワークショップの結果について （３）基本目標及び取り組みの方向の素案について （４）その他 （委員 19 名が出席）
令和 2 年 1 月 27 日	第 3 回四條畷市 地域福祉活動計 画策定委員会	（１）ワークショップの結果について （２）基本目標及び取り組みの方向の素案について （３）その他 （委員 18 名が出席）
令和 2 年 2 月 28 日	第 4 回四條畷市 地域福祉活動計 画策定委員会	（１）第 4 期四條畷市地域福祉活動計画素案につい て （２）その他 （委員 15 名が出席）

